

明治二十九年

(二月)

一月一日 水曜 晴朗。夜月如水。半夜過ヨリ大雨。

朝五時起。神前祭祀。畢テ椒酒、雑煮ヲ祝フ。畢テ生徒ヲ拉シ、氷川社ニ参詣シテ歸。迎賀客。來客続々、依而不記。桜井時子一宿。

桜井時子、同二人より鶏卵二箱。北村静よりみかん一箱。

一月二日 木曜 朝雨、已而霽。終日陰。

朝六時起。初湯ニ浴シ、祭祀ス。畢而雑煮ヲ祝ふ。迎賀客。年始状或ハ名刺ヲ揮毫ス。上野とせより松魚一箱。

受方摘要 浅田幸、五円。

一月三日 金曜 晴朗。

朝六時起。午下、余、小松宮、戸田氏、三条家、岩倉家、姉邸ニ新年祝詞ヲ伸テ、四時歸。三条資君、紅絹(〇〇)一疋。戸田氏、縮緬袖切、ウデさし編もの。

弘方摘要 車夫二人え一円。

一月四日 土曜 晴朗。夜月清。

朝六時起。終日、明日之準備ス。

一月五日 日曜 晴朗。暖如春三月。夜月清光。

朝六時起。祭祀ス。生徒新年会、午下一時之招待、午前より続々來会ス。賀客百三十人余、從者共二百人余也。庭中ニ音楽場ヲ設ケ、少年音楽隊奏樂。生徒一同、椒酒、菓子ヲ出ス。二時半ヨリ福引、四時畢。実ニ盛会也。夜、知人之新年会。是又、大々賑々敷、歌ひ、舞、或ハ茶番なぞ、大々盛宴也。十時畢。

豊田市蔵より鶏一羽。井深氏より生鴨二羽。外ニ來客より到來物、惣數百十箇也。金五十  
五円也。伊藤定子、大豆カマス入。

\*歌ひ(謡) \*カマス(吠)

一月六日 月曜 晴。入寒。

朝五時起。祭祀ス。

井深氏より宮しげ大根二本、守口漬一鉢。山島氏より鮭一尾。

\*宮しげ大根(宮重大根)

一月七日 火曜 晴朗。三十度。池水極テ厚、霜如雪。

朝六時起。人日菜粥ヲ祝ふ。千久子**微怠**。町内**獅々**来、舞。来客、島田孝一、渡辺玉子、大橋妻、神山藤四郎。入塾、神山定子、大橋孝子。午下、塾生続々入塾ス。

島田氏より干菓子一箱。蒲生氏より偉人伝二部。大橋孝子、鶏卵一箱、洋酒二瓶。園頼子、紅絹(〇)一反。渡辺玉子、(〇)八丈一反、山葵漬一桶。毛利万子、鶏卵大一箱。松平妙子、鶏卵一箱。森永辰江、干菓子。伊藤子之松、羊羹一箱。内藤艶子、干菓子一箱。毛利式子、鶏卵一箱。中島安寿、鶏卵一箱。酒卷氏、**ラツキヤウ**二瓶。

受方摘要 森永辰江、五百疋。

\*微怠(微恙) \*獅々(獅子) \*ラツキヤウ(辣蕪)

一月八日 水曜 晴。

朝六時起。此日、授業始執行ス。入塾、遠田済子。午下、戸田氏ニ教授始ヲナス。已而帰。地方及宮内省御内儀、青山御所、物品ヲ上る**こしらへ**にて、大く多忙也。

三条家より煎餅一文庫。角田氏より、カステーラ一箱。磯辺、湯葉。杉浦孝子、鶏卵一箱。市川政子、菓子一箱。遠田氏、松魚一箱。安田千代、**漬もの**。永野辰子、海苔十帖入。受方摘要 久城孝子、一円。長尾俊、一円。吉田初、二円。

\*こしらへ(拵へ) \*漬もの(漬物)

一月九日 木曜 晴。夜十時二十分頃、地震度々也。

朝六時起。課業如例、終日揮毫ス。

井上くが、林檎箱入。内田かね、菓子一箱。中浜糸、海苔十帖入。田中欽、鶏卵一箱。高鹿信、みりん二瓶。鶴見千代、真綿。田中若野、林檎一籠。

一月十日 金曜 晴、風。

朝六時起。課業如例。入門、小沢円子及某。午下、小松若宮様え御年始申上ル。夫ヨリ閑院宮様え参り、御年始申上ル。御息所様と四時頃迄談話申上、御祝酒戴。夫より御招ニ応して、紅葉館二行。三条様新年宴会也。会者、閑院宮、毛利御夫婦、大谷新法主、菊亭、土方始相談役夫婦、及余ト川鱒夫婦也。頗ル御盛会也。十時帰。

萩氏母、菓子一籠。大坂美尾の忠兵衛、**かふら漬**一樽。西村政子、**半かち**一ダース。閑院宮より半切封筒、袱子地。田村氏より带上ケ、半襟。

\*かふら漬(蕪漬) \*半かち(ハンカチ)

一月十一日 土曜 晴、風。

朝六時起。課業如例。午下一時ヨリ、余、及愛治郎、千久、桃子と同しく、姉邸二行。新年会也。夜九時帰。来客、国分操子。

国分操子より貴女の栞壺部。到来物沢山なれと、多忙にて不記。

一月十二日 日曜 晴。

朝六時起。午下早々、余、桃子と同しく、一条家二行、夫ヨリ九条家二行、青山御所え参る。浜荻さま御局ニテ、久々にて御めしを得、種々談話。糸桜内侍さま、白菊内侍さまニも御目もしを得、其内、御料理等戴、帰宅、晡時也。来客、阿久津愛子、北里虎子、小柳美代の。

福島初子、奈良漬。北里虎子、茶三鐘。内藤艶子、蒸菓子一箱。浜荻典侍、奉書二束、綸子御切御巾着三ツ。若松典侍、美濃紙十帖。糸桜内侍、奉書二束、絹縮緬八尺、紋壁襟地二、真綿一束、巾着三ツ。白菊内侍、半切五束、半襟三懸。阿久津氏より鶏卵一箱、堀田善子、鶴の子もち箱入。

受方摘要 堀田善子、五円。浜荻典侍、千疋。若松典侍、糸桜内侍、五円。楊梅典侍、七百疋。

\*鶴の子もち(鶴の子餅)

一月十三日 月曜 晴。

朝六時起。課業如例。午下、宮城え参り、藤袴さま御局ニて種々御談話申上、御料理等戴、五時帰。来客、井上氏、一宿。

藤袴さまより羽二重(○)一反、御袖入。新樹さまより御文庫、紋縮緬袖地、半襟一。小菊さまより御文庫、羽二重御ひよ、御人形。楓さまより歌集二冊。御寺御所より八ツはし二袋、あられ一袋、御まめ一袋、水から。井上市兵衛、鯛の味噌漬一桶。佐藤姑子、すもし一重。徳川氏より、海鼠腹四壺、かつらほし。

受方摘要 紅梅典侍、千疋。撫子内侍、七百疋。紅葉内侍、五百疋。楓内侍、五百疋。花松典侍、五百疋。藤袴内侍、五百疋。新樹典侍、五百疋。

払方摘要 井上市衛、五百疋。蒲生氏、五百疋。

\*羽二重御ひよ(羽二重御飛代) \*水から(水辛) \*海鼠腹(海鼠腸) \*井上市衛(井上市兵衛)

一月十四日 火曜 晴。

朝五時起。課業如例。午後、井上氏去。此夕、五軒町を訪テ帰。久米氏より松魚一箱、鶴の子餅一箱、赤飯一重。万里小路よりまくろ一尾。

払方摘要 駅逓局預ケ、金五十円。

\*まくろ(鮪)

一月十五日 水曜 陰。

朝六時起。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して、小松宮邸ニ詣し、御不在ニ付、已而帰。

帰途、墓参して帰。寄書、小松宮、伏見宮、御寺御所、**名古や**徳川氏、青山御所浜荻。退校、秦安江。

石山晨子より、おむし一重。

\*名古や(名古屋)

一月十六日 木曜 晴。

朝六時起。課業如例。来客、多豊尾。入塾、新井好子。退校、千家国子。帰校、**星の常子**。書至、小松宮関浦、板東錫子。

多豊尾より鶏卵一箱。新井好子、菓子一折。千家国子、カステーラ一箱。**星の常子**、カステーラ一箱。

\*星の常子(星野常子) \*星の常子(星野常子)

一月十七日 金曜 晴。

朝六時起。祭祀ス。課業例の如し。帰校、浜谷房子、牛込幸子。書至、浜荻典侍、川上幌子、伏見宮滝山。

浜谷房の、黄金漬**ふた桶**、焼鱧沢山。

\*ふた桶(二桶)

一月十八日 土曜 晴。

朝六時起。課業如例。帰塾、山中柳子、田中芳子、静子。来客、田中父。山中柳子より蒸菓子、カステーラ二箱。田中両人より鶏卵一箱。

一月十九日 日曜 晴、已而陰。入夜雨甚、已而雪又晴。

朝六時起。午下、余、泰ト同しく、代々木村久米氏を訪フ。夕飯を喫して帰。帰途逢雨、帰。来客、諏訪常子、原富太郎、宮原六之輔、山中健吉。帰塾、万里小路君子。書至、戸田極子。

万里小路より**天ほら**一籠。諏訪常子より唐饅頭一箱。

受方摘要 松平岳子、千疋、園頼子、五百疋。

\*天ほら(テンプラ)

一月二十日 月曜 晴朗。午下、俄然雪紛々飛乱。入夜霽、月清光如鉞。

朝六時起。課業如例。

木津唯専寺より氷豆腐百二十、棋石あられ一罐、麦わら糸まき、数二十。安田輝子より**ねり九献**二瓶。斎藤三人より**わふる**一箱。

\*ねり(煉) \*わふる(ワツフル)

一月廿一日 火曜 晴朗。三十度。

朝六時起。祭典ス。課業如例。書至、吉川貞子。寄書、周防吉川、大磯徳川氏。吉川氏より鶏卵大箱。正木浜子より、するめ。

一月廿二日 水曜 晴。朝三十度。

朝六時起。祭祀執行。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して帰。入塾、石野琴子。

一月廿三日 木曜 晴。三十五(度)。

朝六時起。祭祀ス。休業ス。余、愛治郎、泰と同しく、朝九時廿分汽車ニテ横須賀ニ行。停車場新橋ニテ、山本母及久子、待合せ同行ス。余、横須賀ハ始めて也。鎌倉より厨子の景色、殊に面白し。十二時、横須賀ニ着。山本安治郎機関長出向れ、則小蒸気船ニテ、橋立軍艦ニ行。昼餐、洋食ヲ饗せられる。畢而軍艦諸機械等委敷説明せらる。畢而鎮遠拝観ス。畢而、造船場工場、一覽ス。皆、可驚進歩也。畢而臼井氏ニ行。一宿と留られたれと断る。夕食ヲ喫して、五時四十分汽車ニテ帰る。此日、横須賀ニ而佐野隠居、斎藤誠之丞、仁子に逢、帰り汽車も同行也。来客、谷菅子、山県孝子、重威、玉枝。

九条恵子より白砂糖一箱、越の雪一箱。谷菅子より、すもし食籠。山県氏より衛生あめ一箱。玉枝より赤飯一重、松魚一円。

受方摘要 九条恵子、千疋。

\*厨子(逗子)

一月廿四日 金曜 晴。

朝六時起。課業如例。

西三条浜子、鶏卵一箱。阪東大宣、カステラー一箱。

一月廿五日 土曜 晴。

朝六時起。課業如例。

稲垣氏より鶏卵一箱。

一月廿六日 日曜 晴。

朝六時起。揮毫ス。午下四時より、余、桃子と同しく、玉枝之家ニ行、五時過帰。来客、中井鉄子、退校ス。

中井氏より、カル、ス煎餅一罐、すもし一箱。

受方摘要 松島浜江、三円。

一月廿七日 月曜 雨。

朝六時起。課業如例。

一月廿八日 火曜 暖如春三月。四時頃ヨリ風。  
朝六時起。課業如例。午下、貴婦人会ニ参集ス。五時帰。来客、五島善子。  
五島氏より鶏卵一箱。北垣氏より林檎一籠。

一月廿九日 水曜 晴。

朝六時起。課業如例。午下、田村氏ヲ訪ヒ、暫ク談話して、佐野隠居ヲ訪フ。種々馳走ニ  
テ、入夜帰。来客、佐野隠居、牛込幸子母。

牛込氏より鶏卵一箱。佐野隠居より蒸菓子一箱、銅暖爐、みかん一籠、すもし二重。

\*銅暖爐(銅暖炉)

一月三十日 木曜 孝明天皇御祭日。晴。

朝六時起。祭典、揮毫ス。久米節子、三人小児ヲ拉して来ル。山中健吉来。退校、金沢芳  
子。

内田兼子より柿の砂糖漬。久米氏よりビスケー二罐、袋物、笥十本。金沢氏より半紙一束、  
扇子二本。

受方摘要 板倉氏より千疋。

\*ビスケー(ビスケー)

一月三十一日 金曜 晴。夜月清光。

朝六時起。祭典。課業如例。来客、玉枝。夜、東五軒町火。

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 陽子え二円。

一月会計

払方摘要 雜費、九円拾七錢五厘。

(二月)

二月一日 土曜 晴。

朝六時起。祭典。課業如例。午下墓参ス。終日揮毫ス。入塾、四倉民野。

重威より、のり巻二重。

二月二日 日曜 晴。

朝六時起。祭祀執行ス。午下早々、愛治郎、千久、栄子、芝の海水ニ遊ぶ。余、竹林え撮

影に行て帰る。来客、宮原六之輔、夜九時去。  
石山氏より、すもし一重。  
弘方摘要 写真代、二円。

二月三日 月曜 晴。  
朝六時起。課業如例。入門、内田順子。入塾、木村徳子。

二月四日 火曜 朝少々あられふる。已而止。夜雨。  
朝六時起。課業如例。来客、田村増子。夜三時、番町火。  
田村増子より干菓子一箱、真わた、糸あみ物手提、ふくさ、外ニ帶上二ツ、手ふくろ一組。  
久米氏より三川島菜漬一樽。  
\*あられ(霰) \*三川島菜漬(三河島菜漬)

二月五日 水曜 晴、風。  
朝六時起。祭祀ス。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して、杏雲堂病院ニ石橋君子を問ふ。  
病、大イに快気也。暫時にして北白川宮御殿ニ詣ス。御息所君に謁し、御霊参拝申上て、  
暫時談話して帰ル。

二月六日 木曜 晴。  
朝六時起。祭祀ス。課業如例。寄書、京都大谷様、大磯徳川家、台湾久米氏、朝鮮東条時  
子、尾鷲土井氏、三条家、代々木久米氏、名郷ふか子。  
森永氏、菓子一瓶。

二月七日 金曜 晴。  
朝六時起。祭祀ス。課業如例。入門、江口俊子。退校、岩上芳子。会津若松名郷氏、小包  
郵便出ス。入塾、森安房子。来客、池田碌子拉小兒来、斎藤仁子。余、四時頃ヨリ散歩し  
て、五軒町ヲ訪テ帰。  
佐野新子、奈良漬一罐。池田録子より蒸菓子一箱。今城友子、菓子一箱。斎藤仁子、蒸菓  
子二重、亀楽せんへい一箱。  
受方摘要 斎藤仁子、十五円。  
\*池田碌子(池田碌子) \*池田録子(池田碌子) \*せんへい(煎餅)

二月八日 土曜 晴。  
朝六時起。祭祀ス。課業如例。

二月九日 日曜 終日雨。

朝六時起。田村氏と約アリ。余、愛治郎、千久、桃子、栄子と同しく、歌舞妓座二行、演劇ヲ観。伏見桃山地震加藤。今日之征清後と相似テ、実ニ立錐之地もなく大入也。夜九時帰。

北白川宮、御菓子から櫃入。

\*歌舞妓座(歌舞伎座) \*から櫃(唐櫃)

二月十日 月曜 晴。

朝六時起。祭祀ス。臨時休業ス。入塾、太田信子。来客、山形きく来同人、六十一歳祝二付、三十三切之長襦半ヲ祝ふ、一宿ス。夜、日本橋火。

太田氏より、菓子二箱。山形氏より、菓子一重。

\*長襦半(長襦袢)

二月十一日 火曜 晴。

朝六時起。紀元節、休業。来客、岩間熊江及其娘、藤浪長三郎。此日、牛込、築地町火。

岩間氏、蛤一籠。藤浪氏より、すゝめ焼一箱。大塚陽子より守口漬一樽、山葵漬一桶、おせん一袋。

\*すゝめ焼(雀焼) \*おせん(お煎)

二月十二日 水曜 晴。

朝六時起。課業如例。午下二時ヨリ豊島岡北白川大将宮殿下御百ヶ日御霊祭に参拝ス。四時帰。

森律子より、カル、スせん餅一籠。安田輝子よりジヤボン一籠。

\*せん餅(煎餅) \*ジヤボン(朱戀)

二月十三日 木曜 密雪紛々、忽積、銀界となす。午後霽、雪勿消。

朝六時起。課業如例。

\*勿(忽)

二月十四日 金曜 晴。 旧暦元日。愛治郎、誕辰二付、祝日也。

朝六時起。課業如例。

号外、

朝鮮の大政変、十一日、京城ニ於て一大変事起りたり。

国王、世子ハ、十一日未明、露国公使館に赴かれ、新政府組織せらる。

来客、宮原六之介。

立花邦子より小杉五束、鶏卵一箱。

二月十五日 土曜 晴。寒甚。  
朝六時起。祭典ス。午下、墓参シテ帰。来客、井上市兵衛。  
号外、

衆議院停会命せらる。

井上氏より**せんへい**一箱。池田愛子より稲荷すもし一重。濃州青木久衛より守口漬五樽。  
\*せんへい(煎餅)

二月十六日 日曜 晴。寒甚。

朝六時起。揮毫ス。来客、岡田寛。  
岡田氏より鶏卵一箱。

二月十七日 月曜 晴。

朝六時起。祭祀ス。課業如例。三条家、御備物、大鶏卵一箱。毛利御夫婦、此度御国行ニ付、餞別物進呈ス。

濃州青木より守口漬三樽。津田やより京かふら漬一重。

\*御備物(御供物) \*京かふら漬(京蕪漬)

二月十八日 火曜 晴。

朝六時起。課業如例。午下二時ヨリ三条邸ニ詣シ、故内大臣実美公五年祭典ニ付、参拝ス。立食饗応アリ。去テ閑院宮御別殿ニ参り、御息所と夕景迄御談話申上テ去ル。来客、山県孝子。

山県氏より料理一籠。立石八重より蒔絵箱二入。

\*内大臣(内大臣)

二月十九日 水曜 陰。

朝六時起。祭典ス。課業如例。佐藤姑子、田中芳子、長尾俊子、病氣ニ付帰宅ス。余、午下、戸田氏、及田村氏ヲ訪テ帰。夕六時頃、泰遊場なる樹上之小屋焦ル。水ヲ持上り、漸にして消留ル。

森永琴より栗**おこし**二箱。

\*栗**おこし**(栗★(米+巨)粧)

二月二十日 木曜 昨夜よりの雪、終日降つゝけなれと、春の雪とて、木々にハさほと積るよしもなし。屋上は二寸計積る。

朝六時起。祭典ス。課業如例。書至、秋田田中貞子。

**わした菊枝**より鯛味噌一曲。毛利式子より、カステラー一箱。

\*わした菊枝(鷺田菊枝)

二月廿一日 金曜 晴。

朝六時起。祭典修行ス。仁孝天皇五十年御祭日ニ付、休業ス。余、愛治郎、桃子、泰、石山兩人と市村座ニ觀劇ス。但シ書生演劇。法衣屋お熊、野中至氏富士觀則之台之場、新奇面白し。九時帰。此行也、此度宮原氏、越前にて実業開設之送別に招かるゝ也。来客、井上光少将征清後始而來れる、不在にて不逢。三条篤子、風邪氣ニ付、還御なる。井上光氏より征清紀念唐製鏡台、白紋羽二重（〇）一反箱入。受方摘要 三条家より千疋。

\*觀則（觀測）

二月廿二日 土曜 晴。三十度。

朝六時起。祭典ス。課業如例。三条夏子、風邪氣味にて還御。寄書、長尾俊子え。

二月廿三日 日曜 晴。

朝六時起。揮毫ス。守安房子帰宅ス。愛治郎、泰、石神井村高橋氏に行テ、夜帰る。松平秀子、小笠原長生子ト縁談齋ひ、廿七日結婚のよし、申し来ニ付、松魚一折ヲ祝ふ。井深氏より、守口漬一樽。

二月廿四日 月曜 雨。

朝六時起。課業如例。帰宅、塩原豊子、渡辺増子。書至、北白川宮吉野、廿七日午餐に招かる。

渡辺氏より糟つけ一壺。斎藤氏より、カステーラ一箱。井深氏より赤飯一重。

\*糟つけ（糟漬）

二月廿五日 火曜 晴。夜十二時より大雨。六十二度。俄ニ暖、春四月の如し。

朝六時起。課業如例。寄書、三条家、北白川宮様吉野、田中芳子。井深氏之招にて、愛治郎、千久、桃子ゆく。九時帰。

二月廿六日 水曜 晴、暖。六十三度。

朝六時起。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して帰。塾生、感冒者有之、追々流行之兆候相見え（候）故に、明廿七日より一周間休業して、生徒帰省致させる。先々此氣をぬきたる方、よろしくやとの見込也。

\*兆候（兆候）\*一周間（一週間）

二月廿七日 木曜 陰又晴、夜雨。

朝六時起。此日より塾生帰宅させる。余ハ北白川宮御息所の御招に応して、朝十一時より

まゐのほる。外、相客は、伏見宮滝山、小松宮関浦、閑院宮百枝、室崎宗心也。御昼餐ヲ戴き、午後二時過去ル。

受方摘要 北白川宮、五百疋。

\*まゐのほる(参昇)

二月廿八日 金曜 晴。夜三時九十分より月食なれ共、雨。

朝六時起。午下、散歩して五軒町ヲ訪ふ。暫時、談話中、近所江戸川製紙場失火。大ゐにさわく。勿ニして沈火ス。所々梅咲出たるに、香をしたひつゝ逍遙して帰る。塾生、残り居るもの廿人計。感冒のもの一人もなし。

\*夜三時(九(ママ))十分 \*勿(忽) \*沈火(鎮火)

二月廿九日 土曜 朝雨、已而晴、風。

朝六時起。終日揮毫。

弘方摘要 雑費、四円八十錢也。

受方摘要 会計より五円。

(二月会計、記載ナシ)

(三月)

三月一日 日曜 晴、風。四十五度。

朝六時起。揮毫ス。午下、墓参ス。下婢豊、目見する。同(コノ文、以下記述ナシ)書至、岩倉梭子。同、九条恵子。同、徳川良子。

下婢豊より、鶏卵二つと。下婢兼より、うど一巴、くり一盆。

\*つと(苞) \*うど(独活) \*一巴(一把)

三月二日 月曜 晴。

朝六時起。午下、井上光氏ヲ訪ふ。その細君に逢て、暫時にして帰り、はた山本安治郎方を訪ふ。母鶴子、久子と、しはし談話して、はた土方大臣を訪ふ。夫人と閑話して帰る。

★(立十青)国神社の梅林、咲にほふたるに逍遙して、征清軍の分取の唐獅々、見事にすへ付たるを見る。四時全帰。此朝とくより雛人形求テ、志賀鈴江子に祝ふ。夜九時、神保町辺火。書至、大塚由之、石井初子。

\*しはし(暫し) \*咲にほふ(咲匂ふ) \*唐獅々(唐獅子) \*全(ママ)帰 \*とく(疾く)

三月三日 火曜 晴、夜雨。

朝六時起。午下、塾に残りたる生徒十六人ヲ連て、大学植物園ニ逍遙ス。梅花も、やゝ六分かたの咲出たるに、香をしたひつゝ、こゝかしこの景色なかめつゝ、ふと土筆を見出し、**半かち布**に、**つゝめる**たけも摘て、かへりぬ。此時、仁科駒女来。また山形菊も呼に遣して、此夜る、雛祭りの宴、大ぬにたのしく面白し。九時に**をはりぬ**。

仁科駒より**せんへい**一袋。田島春より鶏卵一箱。

\*半かち布(ハンカチ布) \*つゝめる(包める) \*せんへい(煎餅) \*をはり(畢り)

三月四日 水曜 晴、夜雨、十二時頃大烈風。

朝六時起。正午より戸田氏ニ教授して、岩倉氏にも教授ス。已而帰。来客、中島安寿母。塾生も此日迄の休暇にて、続々帰校ス。書至、田中貞子。

毛利万子より菓子一箱。内藤氏、菓子一箱。塩原豊、鶏卵一箱。渡辺増、菓子一箱。森永辰江、菓子一箱。長尾俊、菓子一箱。志賀氏より菱のかちん及桃の菓子一箱。

三月五日 木曜 晴。三十八度。

朝六時起。課業如例。下婢宮、縁付ニ付、下ル。下僕秀五郎召抱ル。

内田かねより菓子一箱。松島浜江より角砂糖一箱。杉浦孝より蒸菓子一箱。久城香より赤貝くし一盆。下婢宮より**うと**一束、**梅かえ**。下僕秀五郎、**鶏卵わらつと**。

\*うと(独活) \*梅かえ(梅が枝) \*わらつと(藁包)

三月六日 金曜 晴。寒甚、風。夜十二時地震。

朝六時起。課業如例。来客、前橋人日向角太郎及菅原伝。稲垣銑子より金平糖一箱。

三月七日 土曜 晴。寒甚。

朝六時起。母之祭祀ス。星野常子より御料理一重。

三月八日 日曜 晴。

朝六時起。揮毫ス。午下、墓参して、姉邸ヲ訪ふ。藤袴内侍様御眼病にて、四時御帰邸ニ相成、夕景迄御咄し申上て帰。

藤袴さまより**御むし菓子**。

\*御むし菓子(御蒸菓子)

三月九日 月曜 晴。

朝六時、蓐を離るゝ時、りやうまちす劇に起り、漸奥迄来り、臥蓐ス。一步もあゆまれません。是七年目の病也。故に休業ス。  
\*りやうまちす (リヤウマチス)

三月十日 火曜 陰。正午頃より雪益降しきりて、綿ヲちきる有様。匆にして二寸計も積。入夜、益盛なり。

臥蓐、病ヲ養ふ。来客、佐野隠居、角田栄子、四三子、千枝子。

佐野隠居より御料理一重、御菓子一箱。角田氏より、さくらもち一重。

\*匆 (忽)

三月十一日 水曜 晴。

臥蓐、いたみ甚し。

池田愛子よりさゝ巻すもし一重。戸田銚子よりほしかき一箱。上杉氏より鶏卵一箱。

\*さゝ巻 (笹巻) \*ほしかき (干柿)

三月十二日 木曜 朝よりあられふる。

褥にふしたれと、病漸おこたりぬ。少しのいたみハさりやらぬ。

徳川氏より、虎子せんへい一箱。

\*あられ (霰) \*ふし (臥し) \*おこたり (怠り) \*いたみ (痛み) \*虎子せん

へい (虎子煎餅)

三月十三日 金曜 晴。

いまた褥上なから、よほといたみはさりぬ。

\*いたみ (痛み) \*さり (去り)

三月十四日 土曜 晴。

朝六時起。払蓐。終日揮毫ス。来客、山本久子、病氣見舞に来ル。

山本氏より菓子一箱。藤袴さまより西京あられ一鐘。

三月十五日 日曜 晴。

朝六時起。父の祭日ニ付、祭典執行ス。中島孝行氏の招ニ応して、余、千久、桃子、栄子、明治座に観劇ス。終日、面白く楽しんで、劇畢而岡田屋へ行、酒飯の饗応。校書三名周旋す。楽を極て帰。時、十一時也。来客、原富太郎、病氣見舞ニ来ル。

受方摘要 原氏より五円。

払方摘要 岡田屋え二円。

三月十六日 月曜 晴。

朝六時起。始て教場に出勤ス。

星野つね子より鶏卵一箱。佐藤きつ、はんへい一重。山内せつ子、梅かえ。中山安子、甘露柚煉一罐。

\*はんへい(半平) \*梅かえ(梅が枝)

三月十七日 火曜 晴、夕方より雨降。

朝六時起。課業如例。

藤袴さまより蒲鋒三枚、鯛二尾。

三月十八日 水曜 晴。六十度。

朝六時起。課業。書の試験と行ふ。余、夕景より姉邸ヲ訪、藤袴様としはらく談話して、九時帰。岩崎茂子、松方二男と縁談齋ひたるに付、其祝として松魚一折、紋羽二重一反箱入ヲ贈ル。

\*とり行ふ(執り行ふ) \*しはらく(暫く)

三月十九日 木曜 晴、夕(以下、記述ナシ)

朝六時起。課業如例。画の試験を行ふ。退校、小沢円子。

三月二十日 金曜 陰晴不定。

朝六時起。春季皇霊祭、休業。遠つみおやの祭り執行ス。生徒一同え紅飯、おにしめにて招く。休暇なれども、裁縫試験中故、朝八時より四時過ル迄、裁縫ス。

斎藤佐野より、お萩二重、生徒え五重。藤袴さまより、おはき一重。重威より菓子一文庫。別府徳子より鶏卵一籠。藤袴さまより、むし菓子。内田兼子より、すもし一重。

\*みおや(御祖) \*おにしめ(お煮染) \*おはき(お萩)

三月廿一日 土曜 朝よりあられ、雪ふる。不順可驚。

朝六時起。祭祀ス。かなの試験をなす。午後三時全畢。来客、立花邦子。

佐藤姑子よりさゝ巻すもし一重。

\*あられ(霰) \*さゝ巻(笹巻)

三月廿二日 日曜 晴。朝三十五度。

朝五時起。祭典ス。余、愛治郎、桃子、泰、石山基遂子と同しく、三崎町第三番八時四十分の汽車に乗して、青梅吉野村観梅に物す。汽車行中、所々の梅花もみな咲出て、景色殊に深し。牛込、市ヶ谷、四ツ谷、新宿、大久保、中野、荻窪、界、国分寺、立川、拝島、福生、小作、青梅ニ至ル十五停車場ヲ過ク。十二時前に、若狭屋旅亭に着、昼飯ヲ喫。此

汽車中ニテ吉野村觀梅客二人同行ス。余、桃子、命車テ行。青梅迄之途路、皆小高き山、四方ヲ廻りに、平坦一円之桑麦也。吉野村迄ハ凡一里にして、至ル処梅樹、花ハ五分位咲出、皆老木、花密ナリ。下吉野村ヨリ上吉野村、即清密寺ニ至り、樓門に上り眺望ス。東一円の山の麓ハ尽く桃林ニテ、花の頃は態々可參也。堂の右ニ小亭アリて、堂守茶ヲ持來り、暫時休憩ス。夫ヨリ万年橋を渡り、危ケンなる橋、殊に長橋にして、兩岸絶壁、岩石殊ニ大。是玉川の上流、水清くして、橋下に至り、左右通景、尤絶佳。是仙境也。吉野村第一の勝景ヲ写して、又若狭屋ニ歸り、夕飯を喫。六時の汽車に乘し、月又清、不覺京ニ歸ル。時、九時也。

弘方摘要 觀梅費、五円。

\*界(境) \*廻り(に(ママ)) \*危ケン(危険)

三月廿三日 月曜 雨。朝七時、三十五度。寒甚。

朝六時起。祭典ス。來客、昨日、山本安治郎。千家国子、御礼ニ來ル。書至、桑港船越松子、志賀重昂月ヶ瀬より、大塚豊子。訃音、長田深子。

千家国子より真綿一束。田村氏より弁当四箱。西齋藤定子より鰻蒲焼二箱。  
受方摘要 千家国子、五円。

三月廿四日 火曜 小雨終日降通す。霜降。寒温計三十五度。

朝六時起。寄書、長田氏、徳川氏、大塚豊子え小包ニテ半襟二懸贈ル。午下、宗隱居ヲ訪。夫ヨリ立花氏二画の教授して、夕景歸ル。

大塚豊子より、鱈のてんふ三曲。田村氏より羽二重大半かち箱入。立花氏より帛紗地。  
\*てんふ(田麩) \*半かち(ハンカチ)

三月廿五日 水曜 晴。寒甚、霜降、水氷。

朝六時起。試験全畢。夕景より姉邸に良子様ヲ伺ひ、九時歸。

三月廿六日 木曜 晴。

朝六時起。塾生帰宅ス、過半也。書至、徳川氏。來客、重威、武井氏。退校、石野琴。弘方摘要 黒縮緬羽織仕立代、三十八錢。

三月廿七日 金曜 雨。

朝六時起。

受方摘要 樹下定江、千疋。

三月廿八日 土曜 晴朗。

朝六時起。午下早々、余、愛治郎、千久、桃子、浅田幸子ト同しく、日本銀行落成ニ付、

其宏大堅固なるを觀ル。世界各国ニ於テ、未だ、かく工造の盛なるハなしと言ふ。外人の手を**からす**、外国の物品をも**からす**、内国の手にてなしたる也とハ、実に遂行の功、可驚也。觀覽ハ二時間也。畢而休憩所ニテ茶菓を饗せらる。去て三井呉服陳列館ニ至、買帶、歸。

\*からす(借らず) \*からす(借らず)

三月廿九日 日曜 晴。

朝六時起。來客、平岡熙一。書至、田村長子、女子分婉。

平岡氏、松魚一箱。

三月三十日 月曜 晴。

朝六時起。卒業証書及優等証ヲ揮毫ス。來客、重威姉小路公義伯、四月六日比歸朝のよし申來ル。本年卒業生十二人。優等賞ヲ請ル者四十八人也。夕景ヨリ五軒町良子様ヲ訪ヒ、九時歸。長尾俊子母來。俊子退塾通學願出ル。

長尾氏より鶏卵一箱。

弘方摘要 雜費、四円廿七錢五り。

受方摘要 會計より五円。

\*五り(五厘)

三月三十一日 火曜 陰。

朝六時起。祭典ス。午下、余、桃子ト同しく、銀座辺へ行。夫ヨリ万里氏ヲ訪テ、五時過歸ル。

松平秀子より松魚一箱、**鶴の子もち**一箱。

\*鶴の子もち(鶴の子餅)

(三月會計、記載ナシ)

(四月)

四月一日 水曜 雨。

朝五時起。祭典ス。終日揮毫ス。

田中若野、鶏卵一折。

弘方摘要 陽子、三月、四月、二円。

四月二日 木曜 晴。

朝六時起。祭典ス。来客、沢井石雲、其娘と也。余、午下早々田村氏ヲ訪ヒ、出産ヲ祝ふ。  
緋友染産衣及松魚一折。此時、久米節、来居、已而帰。明三日、卒業式ニ付、準備全齊。  
退校、小野八重子。

重威より菱のかちん一組。本間かや子、松魚一折。

\*緋友染産衣(緋友禪産衣)

四月三日 金曜 晴朗。

朝五時起。神武天皇祭典執行ス。午下一時迄ニ生徒続々来集ス。南講ニ於テ卒業証書授与  
式举行ス。余、祝辞ヲ朗読ス。畢而浅田幸子答辞ヲ伸フ。畢而授与ス。卒業生十二人、優  
等賞ヲ受ル者四十八人也。式畢而余興。落語、園遊ヲはしめ、七、八人之落語、或ハ茶番  
等ニテ、皆々笑ひ興し、畢而下の南教場ニテ主餐。畢而、五、六時間中ニ皆々退散ス。退  
塾、毛利式子、毛利万子、福原梅子。退校、石岡定江。  
到来物、山の如し。一々記する事難し。

\*園遊(円遊)

四月四日 土曜 晴朗、夜雨。

朝一時、桃子、俄然心臓動揺劇烈にて、医師え人ヲ走せ、それ迄ニ冷水ニテ冷し、医師兩  
人来リ手当ヲする。已而漸動揺ハ沈まる。余、四時過就眠、朝七時起。午下一時、重威女  
子幾子、初雛祭ニ付、余、愛治郎、千久、栄、鶴、応招ス。幾子、成長可驚。壮健ニテ先々  
安堵。外ニ来客人モ有テ盛宴也。夜八時帰。来客、河瀬英子嬢の入塾願来。入塾、(以下、  
記述ナシ)

河瀬英子より松魚一折。

四月五日 日曜 晴朗。

朝六時起。祭祀ス。庭中、桜花咲出ル。来客、牛込幸子母、万里小路為子。退塾、牛込幸  
子。入塾、長谷川静江、角田四三子。重威より申来、只今姉小路伯神戸着電信、七日横浜  
着。

牛込氏より草のもち一重。石山晨子より草のもち一重。江副米子、松魚券一円、すもし一  
折。田中か代、中島安寿、すもし一重。内藤艶子、菓子一折。万里小路、料理二折。正木  
浜、日光土産。

受方摘要 牛込幸子より十円。

\*草のもち(草の餅) \*草のもち(草の餅)

四月六日 日曜 晴。

朝六時起。祭祀ス。授業始ヲなす。入学、三上武子、船井初子、一柳菊子、紅林文子、石  
沢糸子、野平礼子、佐伯秋子。庭中之桜花、過半咲出ル。

森千代子、鶏卵一折。田村氏、絹半かち三箱。日向幸より鶏卵一折。西川富、鶏卵一折。長江満、菓子一折。内田兼子、鶏卵一折、羊羹一箱。沢村鶴、秋田露漬一箱。  
受方摘要 安田輝子より五円。

\*絹半かち(絹ハンカチ)

四月七日 月曜 雨。終夜暴風、可驚。

朝六時起て、母の祭祀を行ふ。課業如例。横浜重たけより電報着、姉伯十二時新橋着。課業畢而、余、千久子と石山氏と同じく、新橋ニ相待。十二時十五分着。姉伯事、大ゐに壮健、船の動揺もなく安着、可喜。夫より五軒町姉邸ニテ、皆々御迎ひの人々に先々悦の宴を張り、余等五時帰。

\*重たけ(重威)

四月八日 火曜 晴朗。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して、姉邸ヲ訪ふ。伯御不在。藤袴内侍様と閑談して帰ル。入塾、河瀬清子。来客、中村元嘉妻。

河瀬氏より蒸菓子二箱。中村氏より西京すもし一重。

受方摘要 中村文子より五円。角田兩人より十円。池田愛子、五円。

四月九日 水曜 晴。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。午下、姉伯来られ、酒肴を饗す。畢而帰らる。

四月十日 木曜 晴。

朝四時、余、愛治郎、篤子様、米子と、車ニ乗して、墨堤の桜花を見る。曙の花とて、いと静に露を含みたるに、七、八分の盛りて、水も音なく、所々に漁火の点々として、朝霞の間より見ゆるさま、いと面白し。言問ひの先の辺まで逍遙して、帰路、東台に花を見る。花下散歩して帰。時、六時也。課業如例。入塾、永田定子。

\*盛り(て(ママ)) \*言問ひ(言問)

四月十一日 金曜 晴朗。七十五度。

朝五時より、余、愛治郎、夏君様、静子を連て、飛鳥山の桜花を見る。王子田畝、雲煙の中より日の出のけしき、この山のさくら爛熳たる、ひと目万本ともいふへき花の山、久々にて、この風色を見て、吉野はいまたみもせねと飛鳥にはまさるらしと、いく度となく賞して帰りぬ。七時前也。此時、山県幸子来、すたの花見ニとて、迎えられる。午下三時より山の宿山県氏へ行。安田輝子も来られ、小船にて墨田川より船さして花を見る。此日を以て真盛といふ。大学、高等中学校、商業学校の端艇競漕会にて、隄には人ヲ以て土手を築き、川には船にて満目みな船といふ、実に未曾有の盛会也。点灯比、山県え船を繋ぎ、

夕飯を喫して帰。時、九時也。

石神井村さと、みや母より鶏卵、 $\square$ 四、あられ。

受方摘要 浅田幸子、五円。塩原豊子、二円。

\*爛熳(爛漫) \*すた(墨田)

四月十二日 土曜 晴。余、始テ裕ヲ着ク。

朝六時起。来客、沢井石芸、其娘、玉枝、定治母、姉小路伯。余、午下一時より、岩崎氏  
深川別荘ニテ、園遊会ニ赴ク。茂子、松方正作と結婚之披露也。此荘之宏大結構、日本館、  
洋館、庭中之山水、其風光之美ハ、実未曾有と云へし。名石之位置もよく、所々に掛茶屋  
等、或は楽隊或ハ手しな、至れり尽せり。三時後より立食の饗応にて、余ハ四時去ル。夫  
より橋場小松宮様御別殿ニ参ル。御花の宴御催しにて、御客は閑院宮清栖様、北白川宮富  
君様、樋口夫婦、余と也。夜十時、**観を尽して**帰。墨堤之人々及花見遊山船、稀なる賑ひ  
也。花は、もはや散みたれて雪の如し。来客、岩浪稻子。  
稲子より菓子三重。

\*手しな(手品) \*観を尽して(歡を尽して)

四月十三日 日曜 陰。

朝六時起。課業如例。入塾、田中幸子。来客、右幸子母及伯母。午下四時より、余、愛治  
郎、栄子ト同しく、志賀氏の招に应じて、靈南坂の家に行。例の好みの料理ニテ、雑談し  
て、夜八時帰。志賀氏、九時五十分終列車ニテ西京ニ趣かる。書至、山県幸子、宮原六之  
輔。

姉小路より鶏卵一折。斎藤三人より、カステーラ一箱。星の常子、干菓子一箱。

受方摘要 佐藤姑子、五円。

\*趣かる(赴かる) \*星の常子(星野常子)

四月十四日 火曜 朝晴、午下雨。

朝五時起。課業如例。帰国、四倉民野、兄の病死ニテ遺骨と共に帰国ス。寄書、山県幸子。  
受方摘要 中山安子、五円。池田幾子、五円。

四月十五日 水曜 朝ヨリ雨。

朝五時起。父の祭祀を行ふ。正午より戸田氏ニ教授して帰。石橋君子、帰塾ス。

四月十六日 木曜 朝雨、已而晴。

朝五時起。課業如例。

四月十七日 金曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、余、塾生及通学生共百九人を連れて、盲啞学校二行、絵合会及生徒の授業を觀ル。畢而帰。

弘方摘要 盲啞学校切符代、金五円四十五錢。学校え土産として金三円。

四月十八日 土曜 晴。

朝六時起。課業如例。來客、牛込幸子、退校の御礼ニ來ル。

牛込幸子より菓子一折、生徒えすもし十二箱。大黒屋よりたけの子二束。

受方摘要 牛込幸子、十円。

\*たけの子(竹の子)

四月十九日 日曜 終日雨。

朝六時起。揮毫ス。來客、佐藤いよ子、小兒二人を連れて訪れる。藤袴内侍様、御眼病もやゝ治し給ひたれハ、此日午前二御参ニ付、姉邸二行、めて度御上りを御見たて申て、午後二時帰。姉伯ハ、愛治郎等と御同行ニテ、百草の花見ニ趣かれる。

\*めて度(目出度) \*趣かれる(赴かれる)

四月二十日 月曜 晴。

朝五時起。課業如例。

田村氏より絹半かち箱入。

弘方摘要 山中氏え、五円。

\*絹半かち(絹ハンカチ)

四月廿一日 火曜 朝雨、已而止、陰。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。來客、毛利万子、式子、梅子、退校之御礼ニ來られる。五島善子使來、教授願來ル。

毛利式子より鶏卵一折、蒸菓子一折。毛利万子より小紋御召(〇〇)二反。

受方摘要 毛利式子、十円。毛利万子、十円。梅子より十二円五十錢。

四月廿二日 水曜 雨。五十度。

朝五時起。祭祀。課業如例。書至、藤袴内侍様より。

四月廿三日 木曜

朝五時起。課業如例。

四月廿四日 金曜

朝五時起。課業如例。福島初子帰塾ス。

福島氏よりカステライラ一箱。

四月廿五日 土曜 雨。

朝五時起。課業如例。此日、代々木久米氏え行へき約束なるに、万千代病氣ニテ断来ル。来客、大塚由成。大塚氏より鶏卵一箱。

四月廿六日 日曜 晴。

朝六時起。午下、北白川宮様え詣し、御息所様ニ拝謁し、御家蔵の軸物拝見ス。珍ら敷もの種々、縮図して帰ル。夫ヨリ閑院宮様ヲ伺ひ、両殿下ニ拝謁して、入夜帰。閑院様より椎茸三籠。

四月廿七日 月曜

朝五時起。課業如例。

石神井秋より竹の子沢山。

四月廿八日 火曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、貴婦人会ニ会し、四時帰。来客、守安俊子、五島善子。寄書、藤袴内侍様え。

五島氏より蒸菓子一箱。

四月廿九日 水曜 晴。

朝五時起。祭典行ふ。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して、帰途、田村氏ヲ訪テ帰。来客、波多野静子、福田芳子。

波多野より干菓子一折。福田氏、蒸菓子一折。

弘方摘要 駅逓局え金五十円預ル。

四月三十日 木曜 晴、風。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。来客、田中元三郎妻、女子三人を拉し来ル。

田村氏より松魚一折、鶴の子もち一重。小松宮様より鶏卵一箱。内田氏、菓子一箱。

受方摘要 会計より五円。

弘方摘要 雑費金、八円廿八銭。

\*鶴の子もち(鶴の子餅)

(四月会計、記載ナシ)

(五月)

五月一日 金曜

朝五時起。祭典。墓参ス。来客、重威、姉伯。

五月二日 土曜 朝細雨、已而晴。天晴朗如拭。

朝五時起。生徒、琴之温習会執行ス。十時より始む。来賓ハ午後より続々来。山勢、今井も来。新さらしヲ弾ス。六時過全畢。三時、来賓及生徒一同えすもしを饗ス。

広田氏より、カステーラ一箱。菅野氏、蒸菓子一箱。田村氏より包物名々え。牛込幸、鮎すゝめやき一箱。西川氏、唐饅頭一箱。山登より、ひらめ、きす一籠。長江氏より松魚。中浜より菓子。星の氏より、みかん三箱。

\*新さらし(新晒) \*名々(銘々) \*鮎すゝめやき(鮎雀焼) \*星の氏(星野氏)

五月三日 日曜 七時頃より雨、入夜大雨。

朝六時起。久米節子、招待断之端書着。夫ヨリ遊船申付、或ハ弁当ヲ拵え、十時三十分出門。車ニテ生徒ヲ連テ、牛込船宿より乗船テ、亀井戸の藤花を見る。藤真盛ニテ、人の群集夥し。天神の境台一廻りして、又乗船て、四ツ目牡丹ヲ観る。実ニ満開。暫時にして船ヲ枕橋ニ入、墨田川ニ出ル。日本銀行端船競争会ニテ競漕ヲ見る。船を下して安田氏え寄、暫時休憩して帰。六時也。一日之楽無究。来客、佐々木豊子。入塾、松岡久恵。

佐々木豊子より、カステーラ一箱。安田氏より西洋菓子一箱。佐野隠居より鯛二尾。

\*亀井戸(亀戸) \*境台(境内) \*無究(無極)

五月四日 月曜 朝雨、已而晴。

朝五時起。課業如例。入学、橘幹、中村千歳。入塾、田中朝、田中祿。来客、重威。

山内節子、葡萄酒二瓶。田口安、鶏卵一箱。池田幾、せんへい一箱。田中両人、鶏卵一箱。伊藤徳、鶏卵一箱。佐野隠居より柏餅数百箇。

\*せんへい(煎餅)

五月五日 火曜 晴、風。

朝五時起。祭典。課業如例。午下一時より、千久、桃子、代々木久米氏え行。来客、田中源太郎。入学、岩崎栄子、竹内金子。下婢豊田大、解雇ス。此夜八時、牛込姉小路真向牛乳や及湯屋より出火。姉邸ハ、よほと接近してある故、直二人々来、消防ニ尽力して損所もなく、右両家丸焼にて沈火ス。

田中源太郎、鶏卵一箱。園頼子、草のみ一重。豊田より、あられ。

\*沈火(鎮火) \*草のみ(草のもち)

五月六日 水曜 晴。

朝五時起。重太郎の祭祀ス。課業如例。午下早々戸田氏ニ教授して、夫より若松町五島氏え約ニ依り出向、善子夫人の教授して同行、大久保つゝし園ニ躑躅を見る。本年ハ花少し。例年之三分一にも不咲。されとも花見る人ハ随分雑沓を究む。★(立十青) 国神社征清軍合祀大祭ニ付、皇后陛下行啓。大久保より五島氏に帰り、主人公にも対顔。酒肴を饗せらる。五時、姉邸へ行、暫時にして帰ル。書至、藤袴内侍様、徳川富子様。竹内金子、菓子一箱。森政子より、カステーラ一箱。

\*つゝし園(躑躅園) \*究む(極む)

五月七日 木曜 雨、午下止。

朝五時起。母の祭祀を行ふ。課業如例。午下二時より重威、愛治郎、石山すま子と同じく、裏松良光子凱旋ニ付、大宮駅迄歓迎ニ出向ル。寄書、裏松子、徳川氏、藤袴さま。書至、毛利みさ子。泰、弘、新一と帰来ル。入塾、市島藤野。

弘児よりかしはもち一箱。毛利美佐子、長州ちゝみ(〇〇)二反、羊羹一箱、外ニ菓子一罐。

\*かしはもち(柏餅) \*長州ちゝみ(長州縮)

五月八日 金曜 晴。

朝五時起。寿邦院殿の祭祀ス。来客、松沢光憲、其女。朝、愛治郎、従大宮婦。松岡久恵より蒸菓子一箱。

五月九日 土曜 晴。

朝五時起。課業如例。来客、大坂木津岡すゑ女、其倅岩井利三郎を同道にて来。四十年来の面晤にて、遂ニ一宿致させる。夜、重威も来り、をさななしみの旧語ヲなす。

岩井氏より蒲鉾五枚。正木浜子より新茶一袋。

\*をさななしみ(幼馴染)

五月十日 日曜 晴。

朝六時起。祭祀ス。大坂之客人乞暇テ、上野浅草見物ニ出ル。此朝、大坂一心寺村上直哉、右岡末女之知己人にて、同道し来ル。入門、浜節子。来客、長松菅子、米倉山子。米倉氏より菓子一箱。江副より、すもし一箱。

五月十一日 月曜 晴、夜風雨。

朝五時起。課業如例。入塾、市島藤野。齋藤氏より、カステーラ一箱。

五月十二日 火曜 雨。

朝五時起。課業如例。午下、姉邸ヲ訪ヒ、それより五島氏ニ教授して、帰途、山片菊女を訪テ帰。来客、山県幸子其母と退校御礼ニ来ル、原田照子、大坂人岡末、其倅利三郎、親戚中森重助妻。閑院宮様より御しらせ至る。御息所様御事、今十三日午前六時五十分、姫宮様御分婉被為在との御報也。

十二日之記事、総テ十三日之事も。

山県幸子より呉服物券十円也、生徒一同え今戸せんへい籠入百箇。原田照子より鶏卵一箱、絹糸三束。中森氏より干菓子一箱

\*せんへい(煎餅)

五月十三日 水曜 朝雨、已而晴。

朝五時起。課業如例。

弘方摘要 山形え土産、一円。

五月十四日 木曜 晴。

朝五時起。課業如例。来客、石橋君子之祖父。余、二時比より角田四三子の病を訪フ。益快方可喜。直ニ閑院宮様え伺ヒ、御息所様、御出生之女子様とも、大く御健全に成らせられる。此度の御産、実ニ御安産ニテ、御子もよく御ふとり被遊、玉のやうなる姫御子也。此日、宮様ニハならし野大演習より還御、始而此御子と御対顔在らせらる。御旧式ニ寄せせられる。御祝酒いたゞきて、五時過る比退く。夫より三条様えも恐悦申上て帰。点灯比也。

石橋氏よりベツの罐詰、生徒一同えパン菓子。

受方摘要 石橋君子より五円。

\*ならし野(習志野) \*ベツ(鼈)

五月十五日 金曜 細雨。

朝五時起。父の祭祀ヲ行ふ。夫より墓参ス。課業如例。退校、石橋君子、川瀬清子。齋藤氏より、すもし一重。

五月十六日 土曜 終日雨。

朝五時起。課業如例。午下一時より、余、桃子ト同道ニて、公爵毛利家園遊会ニ出向ル。雨中ながらも続々来会者群集。御庭の東側、高き小屋ヲ出来テ、珠乗及かるわさの芸にて、いと珍らしき、あやうき事限りなし。御見物其外、一切皆御座敷にて、演芸の半比、立食饗応あり。済てまた右の演芸のうち、余等ハ帰りぬ。夜、揮毫ス。小菊典侍より寄着一箱。

\*珠乘(球乗) \*かるわさ(軽業)

五月十七日 日曜 晴。

朝五時起。祖父の祭祀ス。午下二時より五軒町重威方ニテ先祖祭祀ニ、余はしめ家内一同参拝ス。折弁当ニテ、五時、畢而帰。此四時比、地震ス。

松島氏より、カルゝス煎餅一鐘。石神井豊田より縁豆一盆。

\*縁豆(豌豆)

五月十八日 月曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下ヨリ徳川氏二行。良子様、富子様、教授して帰ル。

田村氏より、絹半かち一箱、外二種々。園頼子より御料理三重。徳川氏より有松しほり(〇)一反、魚煎餅一鐘、湯のみ一箇

\*絹半かち(絹ハンカチ) \*有松しほり(有松絞)

五月十九日 火曜 晴。七十七度。始テ此暖気ヲ覚ル。

朝五時起。課業如例。午下揮毫ス。来客、今津源右衛門、妻、其娘、桜井直蔵。

桜井氏より干菓子一箱。園様より泰宮様より御拝領の大鯛、大海老。

五月二十日 水曜 陰。頓ニ五十五度。

朝五時起。課業如例。午下早々戸田氏ニ教授して、五島氏へ行、教授して帰。来客、諏訪常子。

諏訪氏より菓子一箱。松平岳子より虎子せんべい一鐘、ほうほけきやう三箱、董艸。

五月廿一日 木曜 陰、午下雨、終夜降続く。五十五度。

朝五時起。姉小路宰相中将公祭典執行ス。午下三時ヨリ、余、愛治郎、千久子、桃子、石山両人と同道、姉小路之招ニ寄り出向ル。故宰相中将殿之祭典ニ付、参拝ス。夕飯を饗せられる。八時後帰ル。

角田四三子より鶴の子もち一重。大橋幸子より越の雪一箱。田村氏より新茶二袋。

\*寄(ママ)り \*鶴の子もち(鶴の子餅)

五月廿二日 金曜 雨。

朝五時起。課業如例。

五月廿三日 土曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、余、桃子ト同しく、三井呉服陳列館ニ行、求品物帰。

五月廿四日 日曜 晴。

朝五時起。揮毫ス。午下早々、余、閑院宮御別殿ニ参り、御息所、恭子女王殿下ニ御目見して、暫時御はなし申上ル。女王様、日々御機嫌もよく、御するくさま也。緋板しめ御産衣、御祝ひ申上ル。夫より青山御産所ニ参り、小菊典侍様にも御対顔申上、御降誕の聡子内親王殿下ニも拝謁仰付られる。実ニ御壮健ニ入らせられる。暫時御物語申上て退出ス。

\*緋板しめ(緋板締)

五月廿五日 月曜

朝五時起。課業如例。

五月廿六日 火曜 雨又陰。

朝六時起。課業如例。入塾、今津久子。朝来客、藤波篤治郎。余、午下四時頃より閑院宮邸ニ詣し、殿下ニ拝謁ス。上田初之件也。

今津氏より松魚一籠。安田芳治郎より饅頭一箱、縮緬帛紗地箱入。

五月廿七日 水曜 晴。

朝六時起。祭祀ス。課業如例。午下早々戸田氏ニ教授して、吉川氏ヲ訪ヒ、夫人まさ子、所勞ニて、不逢して帰。午下三時頃より、余、愛治郎、山形菊、仁科駒と同道にて、代々木久米氏ヲ訪フ。此夜一宿ス。夜、謡或ハ舞等にて、校書二人来。十二時迄遊ふ。月、十五夜にて、庭中月ニ歩ス。其景又妙。来客、藤波篤治郎及長三郎、はつ女復籍之件ヲ協義ス。

\*協義(協議)

五月廿八日 木曜 晴、夜雨。

皇后宮御地久節ニ付、休業。朝六時起、庭中散歩して、朝飯後より種々面白き事、遂ニ昼飯を喫して、二時過、皆々帰。来客、佐々木豊子、従弟まさ連来。右まさ召抱ル。訃音、五島善子祖母鏡子、昨廿七日午前二時死去、三十日午後二時仏葬執行ス。佐々木氏より鶏卵一箱、菓子一箱。田中金子より鉄瓶一箇。

五月廿九日 金曜 晴、又雨。

朝五時起。伯母べん子祭祀ス。課業如例。来客、山形菊。

山形氏より柏もち一重。池田愛子より、すもし一重。故北白川宮様御遺物として、瑠球上布(○)一反。

\*瑠球上布(琉球上布)

五月三十日 土曜 晴。午下、雷鳴、俄然雨降、忽而止。

朝五時起。課業如例。愛治郎、五島氏ニ会葬ス。桃子、道継卒業式ニ参集ス。

五月三十一日 日曜 晴。

朝五時起。御被執行ス。余、愛治郎、千久、桃子、泰、栄、鶴子と同しく、紅葉館能楽堂ニ往。久米氏之催にて、田沼氏芦刈、次、芝原氏弱法師、次、久米氏之葵上ヲ觀テ帰。

余、愛治郎、桃子、君子ハ、直ニ中洲岡田ニ行。通次子、此夜九時四十分之汽車ニテ大坂ニ出立、入営ニ付、送別会之宴ヲ張らる。盛会也。十時過帰。

赤倉氏より鶏卵一箱。園頼子よりさやまめ。

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 五月分雑費、式拾五円五十七銭。陽子え一円。

\*芝原氏(柴原氏) \*さやまめ(莢豆)

(五月会計、記載ナシ)

(六月)

六月一日 月曜 晴、風。

朝五時起。祭典修行。夫より墓参ス。課業如例。入門、竹内松子。来客、佐野新子、齋藤善子。余、午下二時より徳川氏教授して帰。愛治郎、裏松家凱旋祝ニ付、星岡茶寮ニ行。

齋藤氏、鰻蒲焼二箱、蒸菓子一箱、葛もち五重。

六月二日 火曜 晴。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。書至、大坂但間末女。

田村盛子より車の前かけ、外二種々。

\*前かけ(前掛)

六月三日 水曜 晴、夜雨。

朝五時起。佐野齋藤氏より招ニ応して、朝七時半ヨリ雅楽稽古所ニ行。始り十時。神楽、其駒より数番。午下二時より、桃李花、振銚、陵王、那曾利ヲ觀テ帰。入学、牛越柳子、山本静、日下部婦美。来客、志賀重昂。

牛越氏より、カステラー一箱。志賀氏より干物及産物種々。

受方摘要 齋藤善子、五円。松野利根、五円。

\*那曾利(納曾利)

六月四日 木曜 雨。

朝五時起。課業如例。來客、富山県知事安藤謙介、仁科駒女。  
齋藤善子より鰻蒲焼一箱。

六月五日 金曜 晴。  
朝五時起。課業如例。

六月六日 土曜 晴。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。余、愛治郎、千久、泰、栄、鶴之一行にて、午後三時上野  
発之汽車ニテ大宮ニ行。此進行中、到ル処新緑蒼々、田之植付もやゝ済たるもあり、**なか**  
**め**も殊更ニして、直ニ大宮ニ着。人力車ニテ松友館ニ到ル。一憩して氷川神社ニ参ス。公  
園散歩して、夕飯を喫し、畢テ、点灯頃より見沼川に到ル。土橋の下に同館の船有。下夫、  
下婢供して、皆船に乘し、両岸の艸むらに、螢、星の如し。この夜は、風なく月なく、螢  
狩には、極最上の夜ニテ、両岸に螢狩する人々も群り集りて、水辺の遊興また一入也。船  
を下す事、五、六町にして、籠三箇に満て、船をかへして、松友館ニ帰る。時、九時也。  
浴湯して臥。來客も又甚し。夜通しのさわき夢をも結ひかねたり。

井上市兵衛、羊羹一罐、こんぶ一罐。

\*なかめ(眺)

六月七日 日曜 晴。

朝六時起。公園所々散歩して、朝飯を喫して、八時五十分汽車ニテ帰。時、十時也。母の  
**明日**ニ付、**祭典**執行。午下三時過より、重威方へ行、母の祭祀ニ付参詣ス。余、愛治郎、  
桃子と也。入夜帰。

内藤氏、菓子一箱。

\*明日(命日)

六月八日 月曜 雨。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。  
齋藤氏より、カステーラ一箱。

六月九日 火曜 雨。

朝五時起。課業如例。  
池田愛子より、いちご一重。

六月十日 水曜 晴。入梅。八十度。

朝五時起。祭典ス。課業如例。

江副静子より**鶴の子もち**二箱、松魚一円。久米節より**友仙**（○）縮緬長襦袢一枚。

\*鶴の子もち(鶴の子餅) \*友仙(友禪)

六月十一日 木曜 晴。八十二度。

朝五時起。課業如例。愛治郎、下総辺へ行、夜七時帰。来客、井上市兵衛、一宿ス。  
井上氏より手つくね焼コンロン一箇。内田氏より積もの一重。

\*手つくね(手捏)

六月十二日 金曜 晴。

朝五時起。近方逍遙して帰、課業如例。井上氏、午下帰浜ス。来客、姉小路伯。書至、三条家、本願寺及渥美氏より。

\*近方(近傍)

六月十三日 土曜 晴。

朝四時起。近方散歩して帰、課業如例。愛治郎、姉伯同行ニテ、横浜三の谷ニ一宿ス。余、終日揮毫ス。

\*近方(近傍)

六月十四日 日曜 晴。

朝四時起。午下四時過より紅葉館ニ会ス。本願寺法主の御招ニ付、貴婦人会幹事、会長、参集ス。盛会也。九時過、畢而帰。愛治郎之一行、十一時帰。来客、島田三郎、信子。斎藤氏より交肴一籠。島田氏より帛紗地箱入。

六月十五日 月曜 晴。

朝四時起。墓参ス。父の祥忌ニ付、祭典執行ス。課業如例。来客、松前子使熊坂轟、光岡威一郎、重威。

松前氏より松魚一折。五軒町より、すもし一重。今津久子より菓子一箱。田中浅子より菓子一箱。内藤氏よりヒスケー一罐。斎藤三人、葡萄酒二瓶。

\*ヒスケー(ビスケー)

六月十六日 火曜 晴。八十六度。

朝四時起。近方散歩して帰。生徒復習執行。入門、飯泉里子。

\*近方(近傍)

六月十七日 水曜 晴。 徳川氏有約。

朝四時起。散歩して帰る。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して、それより徳川氏ニ行、書画の教授して帰。大海嘯彙報、宮城、岩手、青森三県。十五日午後八時、大海嘯ニテ流家、

死亡三万二下らず、可驚。

受方摘要 軍事公債利子、七円五十銭。

六月十八日 木曜 晴。

朝四時起。散歩して帰る。課業如例。入塾、林信子。有約、午下六時、余、愛治郎と同道にて、志賀氏二行、晚餐ヲ饗せられる。加藤小三郎又来、会ス。十時帰。来客、久米民之助、節子、民十郎。

久米氏より台湾産敷物、団扇二握、おめし(〇)一反。

受方摘要 林信子、二円。園典侍、千疋。

\*おめし(御召)

六月十九日 金曜 晴。

朝四時起。散歩して帰。課業如例。入塾、山崎鋤子。来客、白井氏母及妻。角田氏有約、午下六時より、余、愛治郎、桃子、栄江と同道にて行。晚餐之饗応にて、珍談殊ニ妙。十時帰。

角田氏より箱庭一箇。山崎氏より松魚一袋。

受方摘要 山崎鋤、一円。

六月二十日 土曜 雨如夕立、雷鳴、已而晴。夜、月清。

朝四時起。氷川神社ニ参詣ス。課業如例。

六月廿一日 日曜 晴。

朝五時起。姉小路中将様之御祭典執行ス。五軒町二行。伯、從三位ニ叙せられたる恐悦申上而帰。午下、余、栄子を拉して、東本願寺ニ詣し、戦死病死者之大追弔会ニ出席ス。一時法会。法主及御連枝光広、其外僧侶、大導師ニ随ひ、立列、奏楽、稚児百五十人、行道散華、読経畢。本堂前、舞楽、春庭花、陵王。此半にして余等退ク。さしものに広き堂上堂下立錐の地もなく、参拝人の群集、実ニ盛也と云ふへし、ア、法主、此夜汽車ニテ御帰西のよし。御暇乞して帰る。山中健吉、昨廿日夜十時死去ス。松前子え画ヲ出ス。

齋藤氏より菓子一重。北垣氏より菓子。長江氏より鰻蒲焼一箱。

六月廿二日 月曜 晴。

朝四時起。氷川神社ニ参詣して帰。伯母之忌日ニ付祭祀ス。教授、本日より半日間とす。海嘯之惨状ニ付、生徒ニ義捐金募集ス。右ニ付、罹災者凡六万人余、皆飢渴に迫ル。来客、松井氏。

田村氏より、カステーラ一箱、絹半かち一箱、帯とめ。  
\*絹半かち(絹ハンカチ) \*帯とめ(帯留)

六月廿三日 火曜 雨。

朝四時起。課業如例。朝、愛治郎、閑院宮家令松井氏ニ往。佐藤姑子、此度美濃部氏と結婚ス。依而、松魚一折、壁寿喜や一反を祝ふ。来客、松前子使、書ヲ依頼ス。

受方摘要 駅通局より三百円引出ス。近藤より三円。

六月廿四日 水曜 雨。

朝四時起。氷川神社ニ参詣して帰。戸田氏ニ教授して帰。課業如例。来客、姉伯、松井氏。受方摘要 九条家より千疋。

六月廿五日 木曜 晴。

朝四時起。余、足にリヤウマチ発して、散歩し難ク。課業如例。十一時後より、余、姉伯、重威、愛治郎、千久子、桃子と同しく、上野精養軒ニ昼餐ヲ喫ス。是ハ姉伯廿七日より西京行ニ付、送別の宴也。畢而美術協会ニ油絵震覧会を見テ帰。来客、安田房子、千代子。退塾、千代子。

安田房子より、カステーラ一箱。千代子より綾糸織(〇〇)ニ反、生徒え袋入菓子百箇。

\*油絵震覧会(油絵展覧会)

六月廿六日 金曜 晴。

朝四時起。課業如例。続地山水一幅、絹地扇面山水、揮毫ス。来客、跡見治、西京行ニ付暇乞ニ来ル。

六月廿七日 土曜 細雨、不定。

朝四時半起。課業如例。姉伯、治子、桃子、三人連ニテ、京坂地方行。十一時四十分汽ニテ発途ス。愛治郎、千久子、停車場迄見立ル。来客、山中健子妻八十子。余、午下五時頃より三条家ニ行、後室様と閑談、喫晚餐而帰。書至、目黒前田梅子。此度、三陸海嘯ニ付、生徒一同より金五十円義捐ス。読売新聞え出ス。

わし田氏より、庄内麩三十枚。

\*汽(汽車) \*山中健子(山中健吉子) \*わし田(鷺田)

六月廿八日 日曜 徳川氏、浅草本願寺。

朝四時半起。寄書、目黒前田梅子、閑、松井氏、横浜星野安子。書至、徳川氏。余、午下一時より貴婦人会ニ会して帰ル。来客、藤浪氏。

下婢豊全快して帰ル、味噌漬、鶏卵二十。内藤氏より菓子一箱。

弘方摘要 貴婦人会文君様え進物代及紅葉館御挨拶、壹円五十銭。

六月廿九日 月曜 朝大雨、午下霽。

朝四時起。祭祀ス。課業如例。来客、村上直治郎、山中健吉朋友岩田実。退校、中山安子。中島安寿、むし菓子一箱。斎藤氏より蒸菓子一箱。

受方摘要 中山安子、十円。

六月三十日 火曜 雨。

朝四時半起。大祓祭典ス。課業如例。来客、勝守甫一、松井氏、藤浪長治郎。帰省、久城香子。

弘方摘要 雑費、十二円廿二銭。

受方摘要 会計より五円。

(六月会計、記載ナシ)

(七月)

七月一日 水曜 朝細雨、午下晴。八十三度。

朝四時起。祭典執行。七時、戸田氏ニ教授して帰。直ニ墓参ス。課業如例。午下三時より徳川氏ニ教授して帰。

七月二日 木曜 晴、夕景細雨。

朝四時起。祭祀ス。課業如例。書至、桃子、京都木屋町月下楼より。愛治郎、山谷ニ行。来客、岩倉家足立氏。帰省ス、正木浜子。橋本宗治郎、新橋十一時四十五分汽車ニテ帰国ス。

受方摘要 三条家より十円。岩倉家より千疋。

七月三日 金曜 雨。

朝四時半起。課業如例。午下、佐野氏ニ斎藤松の病氣を見舞ふ。追々快方也。それより五軒町を訪て帰。来客、閑院宮幸、坊城俊延使西条氏。愛治郎、松井氏、藤浪氏ニ往テ帰。寄書、志賀鉄千代、江副米子。来客、遠藤泰治郎。

美濃遠藤氏より美濃団扇十本。

弘方摘要 協会所え二円。

七月四日 土曜 雨、日暮晴。

朝四時起。課業如例。來客、江副米子、静子通学願出ル。帰省、千家信子。  
江副氏より干菓子一箱、奈良漬一重。

七月五日 日曜 細雨、已而晴。

朝五時起。揮毫ス。半切、君子以成徳為行、同、蘭染煙菊承露、二枚、松前氏。絹本合作、群芳題字、扇面菊花、佐藤旭真。小包ニテ郵送ス。來客、松井氏、藤浪兄弟。

森永琴より鶏卵一箱。藤浪長治郎より菓子一罐。岡田母より漬もの、羊羹一箱。大塚陽子より漬物五瓶。わした菊江より鶏卵一箱。

受方摘要 佐藤旭真、七十錢。

\*わし田(鷺田)

七月六日 月曜 雨。

朝四時起。氷川神社に参詣ス。帰、祭祀ス。課業如例。帰省、浜谷房子。書至、池田禄子。田村氏より御召一反、壁すきや二反、呂帶地、ゆかた二反。浜谷氏より大松魚二本。井深氏より、香魚七尾。

\*壁すきや(壁透綾) \*呂帶地(紹帶地)

七月七日 火曜 雨、夜風雨。

朝四時半起。母の忌日ニ付、祭典執行ス。來客、渡辺福三郎、松前子使、半切書ヲ渡ス。原三幸。書至、北白川宮稻子。寄書、右稻子、池田禄子、田中若野。

上杉氏より鶏卵一箱。井深氏より岐阜行灯、美扇一对。渡辺増子より浴衣地一反。

受方摘要 藪兼子、三円。吉田鉦子、三円。渡辺増子、五円。

払方摘要 大塚陽子え六、七月分、二円。

七月八日 水曜 陰晴不定。

朝四時起。祭典ス。七時より、戸田氏ニ教授して帰。課業如例。來客、松井氏、藤浪長治郎、佐藤姑子。寄書、目黒徳松、及挑灯一箇、通運ニテ贈ル。來客、青山七三郎及娘りう、入塾願出ル。

佐藤姑子より鶏卵一箱、鶴の子餅一重。

受方摘要 園祥子より三円。佐藤姑子、十円。

七月九日 木曜 晴。

朝四時起。飛報來、原安子昨日八日正午十二時男子分娩、母子共健全。寄書、原氏え。余、午下三時ヨリ徳川氏に教授して、晚餐ヲ喫して帰。來客、五島善子、斎藤善子。書至、京都月下亭桃子より。愛治郎、閑院宮様え出ル。

五島氏より蒸菓子一箱。斎藤氏、松魚大折、鰻蒲焼二箱。徳川良子、富子より絹羽織地、

挑灯箱入、有松しほり一反、帶上ケ、羽織紐、瀬戸ふた物。おそまより、有松しほり一反、うちわ六本。

受方摘要 斎藤兩人、佐野常子、三十円、七円五十銭。徳川氏、十五円。同、五百疋。

\*有松しほり(有松絞) \*瀬戸ふた物(瀬戸蓋物) \*有松しほり(有松絞)

七月十日 金曜 天、始晴朗。

朝四時起。祭祀ス。課業如例。書至、姉小路良子様。退校、杉本芳子。来客、藤浪長治郎。良子さまより、素麺一箱。石神井豊田よりいり麦、玉子二重。下総や、糟つけ一桶。

受方摘要 北大路、関根照、二円。今城友子、千疋。

\*いり麦(炒麦) \*糟つけ(糟漬)

七月十一日 土曜 陰。

朝四時起。氷川神社ニ参詣して帰。来客、片平定治母、杉本芳子、初子、藤浪氏。書至、京都大聖寺。愛治郎、石神井村二行テ、夜帰。

はつより、カステーラ一箱。杉本氏より、鶏卵、菓子、煙草三箱。大聖寺より、なす、きうり、まめ、唐からし。田中朝子、越後ちゝみ一反。

受方摘要 片平氏、五円。若松典侍、五百疋。糸桜内侍、一円。白菊内侍、五百疋。石山氏、五百疋。田島春、二円。

\*きうり(胡瓜) \*越後ちゝみ(越後縮)

七月十二日 日曜 陰、午下大雨、三時頃より止。

朝五時起。愛治郎、松井氏二行。来客、藤浪氏。午下三時頃より彼等三人連ニテ行。

大橋幸子、カステーラ一箱。内藤氏よりおめし一反。戸田氏、壁すきや一反。池田愛子、氷砂糖一箱。松平岳子、鶏卵一折。一柳氏、鶏卵一折。戸田氏、松魚一折。玉枝より有松しほり一反、急須箱入。

受方摘要 平田三枝、三円。生源寺いさを、三円。樹下定江、三円。松平鱗子、千疋。松平岳子、三円。

\*おめし(御召) \*壁すきや(壁透綾) \*有松しほり(有松絞)

七月十三日 月曜 晴。

朝五時起。課業如例。来客、松井氏金二百円、藤浪長治郎え渡ス分請取、志賀鉄千代。十一時過、愛治郎帰。

松島氏より菓子一箱。星の常、砂糖一箱。松平妙、鶏卵一箱。戸田銚、ちゝみ一反。浜貞より美団扇七本。志賀氏より鮒すし一箱。三村松子、カステーラ一箱。竹内金子、砂糖一箱、はな紙一束。横浜原氏、明石一反、角砂糖三箱。中江氏、鶏卵一箱。山県安兵衛、鶏卵一箱。角田千恵、角砂糖。島田三郎、角砂糖。南条氏、松魚一箱。若林より福神漬一罐。

受方摘要 戸田氏、二十円。西村喜三郎、二円。重威より一円。紙<sup>田</sup>代、一円廿五(錢)。  
星の常、三円。松平妙、三円。  
\*星の常(星野常) \*ち<sup>み</sup>み(縮)

七月十四日 火曜 雨。

朝四時起。課業如例。來客、安富幾子。

齋藤佐のより蒸菓子一箱。山内節子より砂糖一箱。小山田氏、白砂糖一箱。酒井氏、松魚一円。中浜氏、あわひ二罐。上芝、干菓子。安富氏よりわふる一箱、かんさし二箱。森兩人、干菓子一箱。安田輝子、角砂糖一箱。梅子、長州ち<sup>み</sup>み四反。

受方摘要 松島氏、三円。松の利根、五円。森肇、五円。安田輝、五円。毛利式、二円。毛利万、三円。

払方摘要 かんさし代、五円五五(錢)。納戸しほり二反、一円五十錢。

\*齋藤佐の(齋藤佐野) \*あわひ(鮑) \*わふる(ワツフル) \*かんさし(簪) \*長州ち<sup>み</sup>み(長州縮) \*松の利根(松野利根) \*かんさし(簪) \*納戸しほり(納戸絞)

七月十五日 水曜 陰晴不定。

朝四時起。祭典執行ス。七時より戸田氏ニ教授して、五軒町ヲ訪ヒ、夫より墓参して、氷川神社ニ参詣して帰。余、始テ休業ス。京都御寺御所え福神漬罐入、さらし御ゆかた、小包ニテ出ス。

中村敬子より蒸菓子一箱。杉浦孝、鶏卵一箱。稲垣銚子、鶏卵一箱。江副兩人、松魚一円五十錢。長谷川千代、干菓子。蒲生氏より蒸菓子一箱。斯波滋子、栗饅頭一箱。

受方摘要 福原梅子、一円。江副兩人、五円。中村敬子、二円。

払方摘要 ち<sup>み</sup>み一反、二円五十錢ツ、三反、七円五十錢。四ツ入浴衣、三円五十錢。

\*さらし(晒) \*ち<sup>み</sup>み(縮)

七月十六日 木曜 晴。

朝四時半起。課業如例。寄書、御寺御所東雲え。余、夕景より生徒ヲ拉して氷川神社ニ参詣して帰。

毛利新奥より鶏卵一箱。

七月十七日 金曜 旧六月七日相当。八十八度。

朝四時起。氷川神社ニ参詣して帰。母の忌日ニ付、祭祀執行ス。

伊藤子之松、砂糖一箱。高松氏、砂糖一箱。

七月十八日 土曜 晴。八十六度。

朝四時起。課業如例。夕景より生徒連て、氷川神社参詣して帰。帰省ス、上野とせ、福島初子、森政、律、森千代。

森千代子、鶏卵一箱、浴衣一反。  
受方摘要 森千代、二円。

七月十九日 日曜 土用入。晴。

朝五時起。余、愛治郎、泰と同じく、三崎町九時三十九分之汽車ニテ関香園ニ行、終日遊ぶ。堀の内祖師え参詣して、関香園ニ夕餐を喫して、八時の汽車延着九時に乗して、月と共に此清光ヲ弄して帰。時、小石川辺雨後也。来客、山県幸子、山形菊、鶴。

山県幸子より鶏卵一箱。山かた菊より、蓬萊豆一箱。小木曾氏、砂糖一箱。鈴木雪子より砂糖一箱。斎藤氏より、香魚沢山。

\*山かた菊(山形菊)

七月二十日 月曜 暴風雨。

朝四時起。課業如例。来客、尾道橋本吉兵衛。

橋本吉兵衛より花筵三枚、羽生氏、カステラー一箱。  
受方摘要 内田兼子、一円。

七月廿一日 火曜 晴雨不定。交南風。

朝四時起。祭典。課業如例。書至、雪吹春桂。来客、中山理賢。帰省、桜井兩人、林信子、北垣順子。

安田善治郎より衛生あめ一箱。安田千代、砂糖一箱、平素麵。中島安寿、ちみみ浴衣三反。若松典侍、糸桜内侍より、水仙粽。

弘方摘要 岩崎銀行え百八十円。

\*ちみみ浴衣(縮浴衣)

七月廿二日 火曜 天始晴。八十八度。

朝四時起。祖母の祭祀ヲ行ふ。課業如例。来客、牛込幸子。

昨廿一日午前八時発、

各地方の洪水、岐阜県、愛知県、長野、富山、茨木、群馬。其内、岐阜県尤被害甚し。

此夕、余、生徒舎長を拉して、氷川田圃ニ行、弄月。螢火所々に飛散して、三十疋計ヲ捕ふ。乗興て帰。

牛込氏よりわふる一箱。遠田氏より金剛織一反。

\*茨木(茨城) \*わふる(ワツフル)

七月廿三日 水曜 晴。九十度。熱甚。

朝四時起。伯母の祭祀ヲ行ふ。課業如例。来客、長三郎、荷物ヲ取に來而歸。

七月廿四日 木曜 晴。九十二度。大暑熱甚、夜不寐。

朝四時起。課業如例。畢而、此日ヲ以テ教授納となす。塾生続々迎來、帰宅ス。残ル者十人計也。来客、多豊尾。治子、桃子、新橋正午十二時着ニテ歸。姉伯ハ修善寺旅行中。書至、原富太郎。返書ス、同氏え。

山崎修子より干菓子一箱。多氏より氷砂糖一箱。  
受方摘要 園頼子より五百疋。

七月廿五日 金曜 晴。九十二度。

朝四時起。愛治郎、泰、石山氏と房州え旅行ス。

小西氏より鶏卵一箱。田村氏よりちゝみ一反、白砂糖一箱。

\*ちゝみ(縮)

(七月廿六日〜三十一日、記載ナシ)

(七月會計、記載ナシ)

(八月)

(八月一日〜七日、記載ナシ)

八月八日 土曜 晴。

朝四時起。始て三島の富士山を見る。午餐後、御別荘御出発にて、**絵島**有馬頼万伯之別荘ニ御着。此風光、実ニ可賞也。頼万氏之歓迎也。是ニ御一宿。

\***絵島**(江島)

八月九日 日曜 熱如燒。

朝四時起。**絵島**絶景を写す。朝飯後、両殿下之御供にて、巖に参詣して、海岸ニ海士ニ命じて、**肴**を捕らして歸。昼飯後、御出立。人力車ニテ藤沢ニ着。日蝕、**絵島**よりかけはしめて、此道中、日影之漸々に薄くして、月夜の如し。藤沢御着之時、**[図]** 如斯ニして畢、又漸々元の如し。是より汽車ニ御乗ニ相成、新橋五時着延引して廿五分御着。愛治郎、桃子、栄子、迎ニ來ル。停車場ニテ御別れ申上て、無事帰宅ス。

\***絵島**(江島)

\***肴**(魚)

\***絵島**(江島)

八月十日 月曜 晴。

朝五時起。祭祀ス。書画教授ス。

星野氏よりヒスケー二罐。園氏より衛生あめ一箱。

\*ヒスケー(ビスケー)

(八月十一日、記載ナシ)

八月十二日 水曜 晴、夕景細雨、已而晴。

朝五時起。揮毫ス。

八月十三日 木曜 晴。

朝五時起。揮毫ス。午下五時より閑院宮ニ詣し、御息所と静談して、夕餐ヲ戴テ帰。来客、

山根文子、宇都宮高子。朝七時より書画の教授して、八時半畢。

山根氏より干菓子一箱。宇都宮より砂糖一箱。閑院宮より白すきや一反。目形幸よりみす織一反。

\*白すきや(白透綾) \*みす織(美簀織)

八月十四日 金曜 晴。熱九十度。午下六時白雨一洗ス。

朝五時起。揮毫ス。天賞堂主人江沢金五郎死去之訃音来。香奠二円ヲ贈ル。木津願泉寺屋曾子、去ル十一日死去之訃報来ル。香奠一円ヲ贈ル。

八月十五日 土曜 晴。熱九十度。

朝五時起。氷川神社ニ参詣して、墓參ス。父の忌日ニ付、祭典執行ス。寄書、徳川氏。

八月十六日 日曜 晴。熱九十度。

朝五時起。揮毫ス。寄書、朝鮮東条時子、熊本尾越留子、大分県中山安子。来客、藤波氏。書至、愛媛県森政、律より。

重威より、なす、きうり一籠。

\*きうり(胡瓜)

八月十七日 月曜 大雨降しきる。往来川をなす。

朝五時起。祖父の祭典ス。書画の教授畢ぬ。来客、重たけ、横浜より石井初子、塩原豊子、午後四後去ル。この朝、鶴子、石神井豊田より帰ル。

石井初子よりわふる一箱。塩原氏より、角砂糖一箱。豊田氏より南蜜きび七本、玉子。下婢松より唐もろこし、西瓜。下婢定より西洋西瓜、玉子。

\*重たけ(重威) \*午後(四後(ママ)) \*わふる(ワツフル) \*南蜜きび(南蜜き

び) \*唐もろこし(玉蜀黍)

八月十八日 火曜 晴、又雨。

朝五時起。揮毫ス。寄書、石橋君子、辻八千、加納みほ子、森律子。来客、大崎梅子。茂木氏より故保平の三年二付、干菓子一箱、茶一罐、料理三円。大崎梅子より石の巻の梨子一箱。

八月十九日 水曜 晴。

朝五時起。余、栄子同道にて、午前八時廿分の汽車ニテ横浜原氏ニ行。茂木氏を訪ふ。栄子と久々にて暫く談話ス。故茂木保平氏の三年祭二付、金五円、香資ヲ備ヘル。帰り、原氏ニテ昼飯ヲ饗せらる。午下四時頃より三の山の別荘にて遊ぶ。晚餐ニ洋食して、月殊ニ妙。十時の汽車ニテ帰る。書至、小松宮様より。

原氏より、つれづれ糖一箱。

弘方摘要 汽車賃、六十銭。車代、廿銭。

\*備ヘル(供えル) \*三の山の別荘(三の谷の別荘)

八月二十日 木曜 晴。月尤清、無雲。地震。

朝五時起。書画教授ス。寄書、小松宮様。長井行氏、この度、女学雑誌やまと心初刊二付、富士之図及生徒三人之合作写等贈ル。夕景、五軒町姉伯ヲ問ふ、今日陸地房州より帰京せらる。不在ニテ不逢、見月テ帰。

長井氏より、カステラー一箱。井深氏より鮎の味噌一箱。

八月廿一日 金曜 晴。月殊清光。

朝五時起。姉小路宰相中将殿の祭典執行ス。来客、姉伯来。辻氏えしゝら袖切、小包ニテ出ス。此夜、残りの生徒連て、氷川田圃ニ弄月して帰。

\*しゝら袖切(縮羅袖切)

八月廿二日 土曜 晴。月尤清光。

朝五時起。祭祀ス。此夕、余、桃子と同しく、五軒町を訪ひ、月を弄して帰る。

下婢茂、忠、秀より洋西瓜、なし一籠。石神井豊田より唐もろこし。

\*なし(梨子) \*唐もろこし(玉蜀黍)

八月廿三日 日曜 晴。

朝五時起。揮毫ス。来客、赤星氏、加茂富子、万里直房、山片菊、仁科駒。午下四時より、余、桃子と同しく、小松宮御別殿ニ詣ス。御息所の君と静談。晚餐ヲ賜り、畢而さん橋より船にて、御息所君と同しく、隅田の上流に棹さして、月を弄ス。今宵望月にて尤清、無

雲、実ニ如鏡。水面ニ金波をなし、月を称しなから、千住大橋下にて納涼ス。日曜の夜なれば、月見る船にて、或ハ清楽合奏、洋楽の船も有、実清快也。又舟ヲ廻らして御着。暫時にして帰る。時、九時過也。重威、房州二行。基遂子靈岸島迄送ル。

赤星氏より金玉糖一箱。加茂富子より菓子一箱。山片氏より菓子。仁科氏より羊羹、外ニ二種。小松宮御息所より紋縮緬御きれ地、半切。

\*さん橋(棧橋) \*称し(賞し) \*きれ地(切地)

八月廿四日 月曜 晴。月又晴。

朝五時起。書画教授ス。来客、藤井三郎。

江副氏よりギスケ煮三罐。

\*ギスケ煮(儀助煮)

八月廿五日 火曜 雨。

朝五時起。揮毫ス。書至、小松宮関浦より。寄書、同邸え。来客、伊丹小西長女庸子、入門願出ル。右保証人、堀源兵衛。

小松宮殿下より松魚一折。

八月廿六日 水曜 雨。涼氣始生。

朝五時起。八時頃より三条邸ニ詣し、久々に篤子さま御はしめ、御めにかゝり、暫くにして去る。帰途、田村氏を訪ふ。幸、同一統、去ル廿四日鎌くらより帰京いたされて、久々にて面会して帰ル。

三条家より紋すきや一反。陽子よりなし一籠、西洋西瓜。

\*鎌くら(鎌倉) \*紋すきや(紋透綾) \*なし(梨子)

八月廿七日 木曜 陰晴不定。涼氣七十度。

朝五時起。揮毫ス。午下、山形菊、仁科駒来。夕景より若林及扇吉も来りて、三弦、舞踏にて大ゐに興して、九時皆々去ル。

八月廿八日 金曜 晴。七十度。午下暑さ如元。

朝五時起。揮毫ス。

八月廿九日 土曜 晴。

朝五時起。揮毫ス。柳川立花氏え寄書。重威、泰、房州より陸地帰京。本所停車場え午後一時の着の筈、一車遅れて三時四十分着。愛治郎、迎二行て連て帰り候。先々無事大喜々々。夜八時比、小石川久堅町火。万里家より梨子一籠。

八月三十日 日曜 昨夜来大雨。晴雨不定、如梅雨。午下五時比、微震あり。夜暴風雨。朝五時起。祭祀ス。揮毫。

八月三十一日 月曜 二百十日。晴。風ハ少々ツ、吹たり。至極平穩といふへし。

朝五時起。祭祀ス。揮毫。

弘方摘要 陽子え一円。雑費、二円余。

受方摘要 会計より五円。

(八月会計、記載ナシ)

(九月)

九月一日 火曜 晴。

朝四時起。氷川神社及墓参して帰る。来客、宮原六之輔、越前より来ル。二時比、石山基威、房州より帰来ル。泰、石神井豊田え行。寄書、万里通房。石山氏より梨子。

九月二日 水曜 晴。

朝五時前起ル。故重子十五年祭日ニ付、神殿裝飾、祭典ス。愛治郎、栄、鶴を連而浅草え墓参して帰ル。午下四時より重威夫婦を呼、夕餐を饗す。夜八時頃去ル。帰校、江副静子、渡辺増子。書至、台湾久米氏。

重威より菓子一文庫。渡辺増子より懐中しるこ一箱、ビスケ一罐、**らつきやう漬一罐**、**山しやう二罐**。

\*らつきやう漬(辣蕪漬) \*山しやう(山椒)

九月三日 木曜 晴。

朝四時起。新聞紙に、八月三十日午下五時、秋田県の震害、六郷町全潰れ、凡千戸余、死亡不少。仙台、山形、**巖手**、奥羽、尤劇震。各地風水害、愛知、神戸、富山、三重、大坂、播州、京都、若狭、桑名、美濃、盛岡、其外、電信不通。暴風雨見舞状、所々え出ス。寄書、台湾久米、大崎梅子、白石直治、戸田氏。来客、重威。午下四時頃、五軒町より使来、今奥さま大病ニ付、早く来くれと申。大イニ驚き、車を飛して直ニ至る。重威、治子兩人、腹痛いたみ甚し。吐瀉ス。**中シヤ**していたみ止。甚く食傷也。桃子、陽子来、看護して一宿ス。余ハ已而帰。  
平田氏より時雨蛤二曲。

\*巖手(岩手) \*中シヤ(注射)

九月四日 金曜 陰、夜雨。

朝五時起。運動ス。食後、五軒町ニ病を訪ふ。兩人共快方也。已而帰。帰塾、青山柳子、森政子、律子、石山晨子、内藤艶子。

故小西哥子一周忌ニ付、白木綿一疋。青山氏、菓子一箱。森氏よりふた物箱入、衛生せんへい一罐。内藤氏より菓子一箱。

\*ふた物(蓋物) \*衛生せんへい(衛生煎餅)

九月五日 土曜 夜雨。

朝五時起。祭祀ス。八時より戸田氏ニ教授して、帰途、五軒町ニ病を訪ふ。兩人共快方也。暫時にして帰る。帰塾、塩原豊子、林信子、片平定、治、園頼子、松平妙子、石川倉子。石神井村より、泰、弘、帰来。

園頼子より鶏卵一箱。林信子、衛生あめ一箱。片平氏、角砂糖。塩原氏、カステラー一箱。江副米子、ぎすけ煮三罐、大坂あられ一罐。石川氏、松魚一箱。弘より、くり一盆。佐野氏より梨子一盆。辻房子父、松魚券一円。

\*ぎすけ煮(儀助煮)

九月六日 日曜 晴、夜雨。八十四度。

朝五時起。祭祀ス。入門、小西庸子。帰塾、石川倉子、田口安子、田中芳子、静、松島氏、山中柳子、長江満子、中島安寿、西川氏、永野辰子、日向幸子、市島氏、内田兼、今津久子、三条篤、夏、末子、池田幾子、杉浦孝子、森永辰江、園頼子、大橋幸、別府静、木村徳子。午後、弘児、石神井村ニ帰ル。

小西氏より白七子一反箱入。小西春子、カステラー一箱。石川氏より松魚一折。田口氏、松魚一折。田中芳子、真綿一卷。松島氏より菓子一箱。山中氏より茶一罐、カステラー。長江氏、鶏卵一箱。中島安寿、鶏卵一箱。西川富子、氷砂糖一箱。市島氏、カル、ス煎餅二罐。園氏、鶏卵一箱。大橋氏、鶏卵一折。内田氏、菓子一箱、泡漬物一重。今津氏、菓子一箱。池田幾子、松魚一円。日向幸、松魚一円。杉浦氏、半紙一ペ。酒巻、蒸菓子一箱。別府氏、鶏卵一箱。木村氏、鶏卵一箱。

受方摘要 長江満子、三円。森永辰江、五百疋。別府氏、一円。

\*〔泡(ママ)〕漬物

九月七日 月曜 晴雨不定。九十度。熱甚。

朝四時起。氷川神社ニ参詣して帰ル。教授始執行ス。入門、三村秩子、清水菊子、石坂糸子、吉田鎮子、吉田斐子、森山鉄子。入塾、大森秀子、金井峰子。来客、吉田庸子姑、万里小路八重子。

三村氏より唐饅頭一箱。森永氏、松魚一箱。玉椿内侍、菓子一箱。松平岳子、翁あめ一箱、塩原盆三枚。小西かね子より白絹一反。田村盛子より、セル地一反、ちみ浴衣一反、其外種々。万里氏より懐中しるこ一箱。長谷川静子、絹大半かち二。吉田庸子姑より、鶏卵一箱。

\*翁あめ(翁飴) \*ちみ浴衣(縮浴衣) \*絹大半かち(絹大ハンカチ)

九月八日 火曜 晴雨不定。夜大雨。九十度。

朝四時起。祭祀ス。小西歌子一周忌日ニ付、金二円香典ス。来客、さ木信綱、重威。帰塾、田中金子、井上くか子。

毛利万子、梅子、鎌倉盆二組、同硯一面。安田輝子、唐饅頭一箱。田中氏より、みりん三ひん。井上氏、カステラー一箱。

\*さ木信綱(佐々木信綱) \*三ひん(三瓶)

九月九日 水曜 二百廿日。朝雨、已而晴。晴雨不定。八十八度。

朝四時起。朝七時より戸田氏に教授して帰。課業如例。入塾、安生五十子。下婢松、解雇ス。

安生氏、松魚一折、蒸菓子一箱。下婢松より、さつま芋、西瓜一。

九月十日 木曜 晴雨不定。夜豪雨、可驚。八十六度。

朝四時起。祭祀ス。退校、田中朝子、禄子。来客、桜井宗子、箱根より帰り来ル。氷川神社大祭、花車四台出ル。折々雨ニテ、ビシヨ濡れ。

桜井宗子より蒸菓子一箱。田中氏より菓子一箱。

九月十一日 金曜 晴雨不定。

朝四時起。課業如例。退校、角田四三、千枝。今朝新聞ニ又々愛知、岐阜大洪水。愛知、一千人余の死傷、其外各県々に大洪水、可驚。入塾、小西庸子。

角田氏より絹フランネル一反、菓子一罐。小西氏よりめいせん一反。受方摘要 角田千枝より十円。

\*めいせん(銘仙)

九月十二日 土曜 晴雨不定。

朝四時半起。課業如例。来客、万里八重子。万里小路素信五十日誌、湯葉二箱。

九月十三日 日曜 朝細雨。始めて七十四度、可喜。

朝四時起。揮毫ス。来客、吉木竹次郎。余、午下閑院宮ニ詣し、御息所君と静談移時、已

而去テ、中山正子を訪フ。勝子さまと久々にて談話して帰。晡時也。帰塾、千家信子、田中加代。

千家より鶏卵一箱、瀬戸蓋もの、**干うとん**。田中か代、**ふどう**一籠。内藤氏、菓子一箱。  
\*干うとん(干鰻鮓) \*ふどう(葡萄)

九月十四日 月曜 晴。七十五度。

朝四時半起。課業如例。入塾、佐藤いと子。帰塾、遠田澄子。

九月十五日 火曜 雨。終日終夜、雨降通し。七十四度。

朝四時半起。父の祭典**とりおこなふ**。課業如例。書至、徳川良子。

\*とりおこなふ(執り行ふ)

九月十六日 水曜 雨降通し。

朝四時半起。課業如例。午下四時より、余、愛治郎、千久、桃子と、五軒町ニ往。重威夫婦、病氣快復之祝ニ付、招かる。夜七時過帰ル。

佐野常子より箱根盆三組、外二細工箱類、柚もち三箱、**せんへい**二罐、鰻蒲やき。

\*せんへい(煎餅)

九月十七日 木曜 晴。

朝四時半起。祖父の祭典ヲ行ふ。**名古や**徳川氏え小包ニ而法帖二冊ヲ贈ル。午下、岩倉邸ニ梭子、八千子教授して、帰途、永田町松井氏、百枝さまをとひ、暫時談話して帰ル。入塾、北川捨子。入門、一柳。帰塾、赤倉辰子、新井好子。

赤倉より干菓子一箱。井深氏より守口漬一樽、**あじのすし**一重。

受方摘要 岩倉八千子、壱円五十銭。

\*名古や(名古屋) \*あじのすし(鱒の鮓)

九月十八日 金曜 朝大雨、一切にして已而晴。夜月清光。

朝五時起。課業如例。今朝、諸新聞ニ府下大出水、南足立郡六ツ木村の堤防、十六日を以て決潰するや、其水先ハ蓮田の堤を越て、小松川、中川のおふれ、浸水地の区域ハ、水元村より船堀村、横ハ隅田村ヨリ小松川村以外迄、実に前代未聞之洪水也。可驚。内閣組織未成立。

\*一切(一しきり)

九月十九日 土曜 晴。月清光。

朝四時半起。課業如例。来客、裏松千代子、大橋乙羽。夕景より、余、栄子、鶴子を連て五軒町ニ行。赤城祭礼ニ付て、近辺逍遙して帰。

裏松氏より、蒸菓子一折。青山氏たにさく廿枚。

受方摘要 大橋乙羽、一円。

\*たにさく(短冊)

九月二十日 日曜 曇天。

朝五時起。終日揮毫ス。来客、田中か代母、玉枝。帰塾、佐野常子、正木浜子。

田中氏より梨子二十。正木氏より煎茶一袋。佐野常子より蒸菓子一箱。佐藤糸子、菓子一箱。内田氏より、すもし一重。

九月廿一日 月曜 中秋望。晴。

朝四時起。先君の祭典ヲ行ふ。課業如例。寄贈、信州円山拙哉、松尾直次。書至、大磯徳川富子。橋本宗次郎、従尾道帰来。今霄月、近来稀成清光、可賞。

橋本氏、干海老一箱。

受方摘要 橋本氏より五円。

\*今霄(今宵)

九月廿二日 火曜 秋季皇霊祭。晴。夜月明。

朝四時起。祖先祭典執行ス。生徒一同え赤飯、煮しめニテ饗応ス。重威来。来客、佐野隠居。

佐野隠居より梨子七十。重威より、すもし一重。佐野氏よりおはき二重、生徒え五重。田村ヨリ半襟、半かち。

\*おはき(お萩) \*半かち(ハンカチ)

九月廿三日 水曜 晴朗、夜雨。

朝四時起。伯母祭祀執行ス。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して、五島氏ニ又教授して帰。池田愛子より、すもし一重。田村氏より、すもし一重。

九月廿四日 木曜 晴。

朝四時半起。課業如例。午下、岩倉邸ニテ、梭子、八千子之教授ス。畢而帰。夕景より五軒町ヲ訪テ帰。

九月廿五日 金曜 晴。

朝四時半起。課業如例。午下二時より、余、愛治郎、桃子、栄子参る。藤袴内侍様、三位公義殿此度米国在勤被命候ニ付、其御暇旁御下りニ付、此夜酒宴ヲ開かれる。先々御賑々敷相済、夜八時過帰。

此記事ハ廿六日也。

藤袴さまより白綸子、羽織裏地、御袖をとし。下婢さとより、くり一盆。  
\*御袖をとし(御袖落とし)

九月廿六日 土曜 朝晴、午下細雨、已而晴。  
朝四時半起。課業如例。  
天賞堂より菓子一折、煎茶二鐘。

九月廿七日 日曜 晴。  
朝五時起。揮毫ス。午下三時頃より姉邸ヲ問ふ。良子様、四時御上りに相成候。余も已而帰。帰塾、上野とせ子。  
内藤氏より菓子一折。今津より菓子一折。木津願泉寺より菓子一鐘、郵券五枚。斎藤氏よりせんへい一鐘。佐野常子、くり沢山。  
受方摘要 斎藤三人より十円。  
\*せんへい(煎餅)

九月廿八日 月曜 雨。  
朝四時半起。課業如例。午下、貴婦人会ニ会ス。五時帰。寄書、斎藤仁子、荻のとせ、大崎梅子。小松宮様より御使来、紘地幅物及横額面二枚、御染筆相成、御持参也。入門、一柳千賀子。帰塾、福島はつ子。  
\*荻のとせ(荻野とせ)

九月廿九日 火曜 晴。  
朝四時半起。課業如例。帰塾、伊藤定子、其母来。午下四時より、余、及愛治郎、桃子、栄子、君子、石山基遂六人連ニテ星岡茶寮ニ行。姉小路伯、米国え出立の送別之宴也。来客、万里通房、関博直、同母、沢竹丸、裏松千よ子、其母、浜荻代園崎、藤袴さま代お豊、重威夫婦、小西氏と也。賑々敷宴会も相済、九時皆帰。  
伊藤より紘縞一反。小西氏よりふどう一籠。福島より、カステラー一箱。  
\*ふどう(葡萄)

九月三十日 水曜 陰雨不定。  
朝四時半起。祭典。課業如例。午下早々戸田氏ニ教授して、夫より五島氏ニ教授して帰。姉邸ヲ訪フ。已而帰。  
藤袴さまより鮎の時雨煮。  
払方摘要 雑費、三円三(錢)七(厘)。陽子え一円。  
受方摘要 会計より五円。

(九月会計、記載ナシ)

(十月)

十月一日 木曜 雨。

朝四時半起。祭典執行す。それより氷川神社へ参詣して、帰路、墓参して帰。課業如例。  
午下四時前ヨリ姉邸ニ行。明二日出発ニ付、此夜九時ニ帰。

十月二日 金曜 雨。

朝四時半起。祭祀ス。余、愛治郎、桃子、泰、石山基威と七時より新橋ニ行。姉伯、米国  
え出発。見送り人も沢山ニテ、八時十五分發にて汽車ニ乗せられる。余ハ新橋迄ニ(テ)  
帰ル。外皆、横浜迄御見立する。此汽船、朝十一時之処、延引して午下三時乗込ニ相成。  
皆々入夜帰。帰塾、松岡久恵。  
松岡氏より蒸菓子一箱。

十月三日 土曜 朝晴、午後雨。

朝五時起。課業如例。  
受方摘要 姉伯より五円。

十月四日 日曜 雨。

朝六時起。九時より余、愛治郎、鶴子、石山氏と同行、川上座ニ觀劇ス。西南の役、盲目  
使者、**実地ニ**にして、実に見るべきもの也。

岡田さんより**くた物**一籠。佐野常子より**ふとう**一籠。  
\*実地ニ(に)(衍) \*くた物(果物) \*ふとう(葡萄)

十月五日 月曜 雨。

朝五時起。揮毫ス。課業如例。帰塾、**松のとね子**、高鹿信子。  
高鹿信子より、みりん二瓶。田村氏より**絹半かち**一箱。

\***松のとね子**(松野とね子) \*絹半かち(絹ハンカチ)

十月六日 火曜 雨。

朝五時起。祭祀ス。揮毫ス。課業如例。来客、万里通房。女教社え余の幼稚のはなし聞書  
送附ス。  
毛利式子、あめ二箱、**おせん**一罐。  
\***おせん**(お煎)

十月七日 水曜 朝雨、午下快晴。

朝五時起。母の祭祀ス。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して、夫ヨリ、五島氏ニ行、教授して帰。帰途、五軒町ヲ訪テ直ニ帰。白山大神之祭祀ニテ、山車、神輿も渡御有て、いと賑はし。戸田孝子、細川家、縁段齊ひ、十七日輿入ニ付、松魚老折、白縮緬箱入ヲ祝ふ。退校、吉田初子。來客、吉田初子及其父。

吉田氏より菓子一箱。原幸女一周忌ニ付、菓子一箱、煮茶一罐。森千代子より御盆二組、菓子一箱。

受方摘要 吉田初子、三円。

\*縁段(縁談) \*煮茶(煎茶)

十月八日 木曜 晴天。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。午下、岩倉邸ニ教授して、帰途、北白川宮邸ニ詣し、久々にて旧を語、袖ぬらしぬ。入夜而帰。白山大神祭典ニ付、神輿、大神門内ニ入り、花車八台及躍屋台も来り、大賑々敷事也。入門、小橋富子。

小橋氏より蒸菓子一箱。

\*ぬらし(濡らし)

十月九日 金曜 細雨。

朝五時起。課業如例。畢而揮毫ス。寄書、志賀重昂。原氏え鯉魚之凶揮毫落成ニ付、幸女一周忌之香資と同しく為持遣ス。來客、羽生氏。余、晚景、姉邸ヲ訪而帰。下婢茂より栗一盆。原氏より紋織御召箱入。

受方摘要 原氏より、五円。

十月十日 土曜 雨。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。書至、戸田孝子。岩倉具明より松茸一籠。

十月十一日 日曜 晴、風。

朝四時頃、本郷火。訃音、浦春暉本月六日死去。寄書、春暉氏え。午前十二時前より戸田氏ニ行、午餐饗応せられる。畢而孝子輿入之拵等拝見ス。中々立派之荷物也。可驚。それより小松宮様御違例伺候。御二所様ニ拝顔申上ル。御病もよほと御快氣ニテ、大ゐに安心也。帰宅早々、又高輪毛利家ニ行。此度、大村氏、福原梅子と結婚相齊ひたるニ付、御祝ニ、松魚一折、紋羽二重箱入ヲ祝ふ。此日、五郎様も、去ル九日結婚御齊ひにて、三ツ目の御祝と美佐子様御袖留の御祝ひにて御祝酒、御祝御膳等戴て、夜ニ入て帰。戸田氏より御召一反。田島氏より柘榴枝なり、なすび、きょうり。

受方摘要 戸田氏より、廿五円。

\*きうり (胡瓜)

十月十二日 月曜 晴。

朝五時起。揮毫。課業如例。入塾、羽生峰子。来客、小泉為子、其父と入塾願出ル。書至、志賀重昂、閑院宮様、徳川氏。伴氏母、片山幸治郎、死去ニ付、香儀一円ツゝ。松島より、カステラー一箱。松平鱗子、日光羊羹十棹。江副氏より、松茸一籠。

十月十三日 火曜 雨、夜豪雨、終日降通しぬ。

朝五時起。課業如例。書至、上田はつ。寄書、小西つね子。

稲垣銑子、[絵島額面](#)、[風枕一組](#)。

\*[絵島\(江島\)](#) \*[風枕\(風鎮\)](#)

十月十四日 水曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、五島氏ニ教授して帰。書至、御寺御所東雲、山口梅。谷菅子より松茸一籠。

十月十五日 木曜 晴。

朝五時起。墓参ス。帰て祭典執行ス。課業如例。午下、岩倉家ニ行、教授して、夫ヨリ閑院宮様え参り、御息所殿下に謁して、恭宮様も益御成長被遊、大く安心々々也。日暮去。入塾、小泉為子。寄書、山口梅子。

西京御寺御所より、しめじ一箱。中村敬、松茸一籠。

十月十六日 金曜 晴。

朝五時起。課業如例。余、正午、五軒町姉小路邸ニ行。[大職官](#)鎌足公御神事ニ参詣ス。午後四時頃帰。愛治郎、桃子も来り会ス。

井深氏より松茸一籠。田島氏より[なま鮭](#)一尾。伴氏より饅頭一重。

\*[大職官\(大織冠\)](#) \*[なま鮭\(生鮭\)](#)

十月十七日 土曜 神嘗祭。晴。

朝五時起。余、八時より戸田邸ニ行。孝子、細川邸ニ興入ニ付、御見立申。洋服、白の大礼服ニテ立派なるいでたち也。直ニ帰。それより上野絵画競進会ニ行、巡覧する。画の発達も見ゆるものあり。それより白馬会絵画を見て帰。午後三時頃より五軒町祖先祭祀ニ付、参詣する。泰、栄、鶴ハ一宿。余ハ皆帰。

美濃青木氏より松茸二籠。小泉為子、干菓子一箱。

十月十八日 日曜 晴、夕景より雨、夜豪雨。

朝五時起。寄書及小包物、西京御寺御所、美濃青木久衛氏。来客、上田長治郎及関定暉。訃音、内田かね祖父昨十七日死去。

佐野氏より鰻蒲焼一箱。下婢松より小さいも、栗一籠。下婢秋より鶏一羽。佐藤糸子、カステーラ一箱。内藤氏より唐饅頭一箱。上杉氏よりりん子一籠。上田氏より、梨子一籠。関氏より松魚一折。西京光照院より松茸一籠。

\*りん子(林檎)

十月十九日 月曜 朝雨、已而晴、快晴。後の月見、月色殊の外清光、近来稀なる良夜也。

朝五時起。課業如例。入門、磯田よし子。内田かね祖父え香料壺円、菓子一箱。訃音、山登祖母昨夜死去。

中村敬子、蒸菓子二重。佐野常子、カステーラ一箱。江副米子、柿、ふとう一籠。田村氏、香水一箱、外二種々。

\*ふとう(葡萄)

十月二十日 火曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、閑院宮様え参り、御教授申上て帰。閑院宮より松茸。

十月廿一日 水曜 晴。夜、十五夜にて月いと清く明らかなり。

朝五時起。祭祀執行ス。課業如例。午下、五島氏ニ教授して帰。

十月廿二日 木曜 晴。夜、月殊に清くして寐ニ入ををしむ。余、桃子と丸山のあたり逍遙して弄月して帰。

朝五時起。祭祀執行ス。課業如例。午下、岩倉家ニ教授して帰。横浜原氏八重子一周忌香料、金千疋。山登みつの祖母死去ニ付、金二円香料ヲ贈ル。

\*をしむ(惜しむ)

十月廿三日 金曜 晴。

朝五時起。祭祀ス。課業如例。来客、佐野隠居、斎藤千賀子、上田長三郎、同かめ。寄書、柳川立花氏、大分中山氏。

斎藤氏より松魚一箱、鶏卵一箱、五家宝十五包、風通織一反。上田氏、松茸一籠、蒸菓子一箱、煎茶一籠。

十月廿四日 土曜 晴。

朝五時起。課業如例。

十月廿五日 日曜

朝五時起。課業如例。

園頼子より御料理一重。

十月廿六日 月曜 晴。

朝五時起。課業如例。

内田かねより羊羹一箱、漬もの一重。

十月廿七日 火曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、岩倉氏二行、教授して帰。來客、松井氏。

十月廿八日 水曜

朝五時起。課業如例。招待状、大隈外務大臣より天長節夜会之招待也。

午前二時、台湾ニ於て北白川宮薨去あらせられる。

(十月廿九日、三十日、記載ナシ)

十月三十一日 土曜

受方摘要 会計より五円。

払方摘要 雜費、金拾三円十六錢。

(十月會計、記載ナシ)

(十一月)

(十一月一日〜七日、記載ナシ)

十一月八日 日曜 晴。

朝五時起。

星野氏より料理一重。

十一月九日 月曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、植物園ニ紅葉を見る。

十一月十日 火曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、岩倉家ニ教授して、三条家ヲ訪ひ、資君様と談話して帰。帰、余、北白川宮邸ヲ伺ひ、御庭ニ故大將宮御神社新築相成、参拝して帰。来客、松井氏。内田氏より饅頭一箱、茶一罐。

十一月十一日 水曜 晴。 近衛師団長大将北白川宮御国葬式日也。

朝五時起。課業如例。午下、戸田氏、五島氏ニ教授して、五軒町を訪テ帰。

十一月十二日 木曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、余、桃子と同しく、三井陳烈館ニ行、買物して帰。九条家より柿。

\*三井陳烈館(三井陳列館)

十一月十三日 金曜 晴。

朝五時起。課業如例。愛治郎、川田小二郎葬儀ヲ送る。

横浜原氏より鶴の子もち箱入、松魚券五円。

受方摘要 原氏ヨリ三円。松浦氏、十円。

\*川田小二郎(川田小一郎) \*鶴の子もち(鶴の子餅)

十一月十四日 土曜 晴。

朝五時起。課業如例。授号者、斎藤花峰、江副花橋、松平花馨、稲垣花濃、毛利花源、関花節、杉浦花帳。

十一月十五日 日曜 晴。

朝五時起。父の忌日ニ付、祭典執行して、氷川神社に参り、はた墓参して帰ル。此日午下五時頃より、余、愛治郎、桃子と同しく、田村氏之招に応ず。利勝子の着袴の御祝也。外にも相客十三、四人也。各々、謡、仕舞、或は、つづみ、琴、三味線などにて、賑々しき事也。九時頃帰る。来客、関今子母。書至、斎藤仁子。

関氏より鶴の子もち一台。

受方摘要 関今子より廿円。

\*つづみ(鼓) \*鶴の子もち(鶴の子餅)

十一月十六日 月曜 雨。

朝五時起。課業如例。此日、五軒町庭の菊紅葉見ニ招かれたれて、余ハ脳の氣にて、え行やらぬ。愛治郎、桃子、石山基遂子等ハ行て帰りぬ。

江副氏より蒸菓子一箱。松島氏より干菓子一箱。

\*招かれたれて(招かれたれど)

十一月十七日 火曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、閑院宮様え参り、御教授申上て、帰路、小松若宮様え参り、御不在にて、暫時にしてまかり帰る。

田村氏より延命袋。

十一月十八日 水曜

朝五時起。課業如例。正午早々戸田氏え行かんと玄関迄出たるに、園氏浜浦来られて、今日御俄に周宮様菊花御覽せられ候二付、其御供俸遊してハとて、誘ひに來られ候二付、御受申て、早々身仕度なし、田村長子、増子を誘引して、直二園氏え行。もはや宮様成らせられ、僊錦閣ニ御休憩被遊、それにて、余、桃子、長子、増子、拝謁仰付られ、御供俸ニテ禁苑所々拝観ス。名に逢ふ菊花ながら、実に培養もよく御行届にて、珍らしき花の種々、いく花壇もありて、いとく見所なりけり。今の菊のみか、山々の松の木たちに紅葉のいとよく照りそひて、洗心亭の御まへなどハ、御池にうつりて、えもいはすおもしろし。このみけしき、絵にも言葉にも及はぬさまなり。こゝかしこ御逍遙あらせられて、御産所より御還御あらせられぬ。余等も、それより御産所拝見して、園氏迄まかりて、菊の種々をらせ給ひていたゞきぬ。帰路、田村氏より星の岡茶寮にて、晚餐を饗応せられ、夜八時頃帰宅ス。

受方摘要 斎藤花峰、江副花橋、松平花馨、稲垣花、杉浦花帳、金廿五円。

\*御供俸(御供奉) \*御供俸(御供奉) \*をらせ(折らせ) \*稲垣花(稲垣花濃)

十一月十九日 木曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、岩倉氏ニ教授して、帰途、五軒町を訪ひ、庭の紅葉よく染なして、奇麗也。已而帰。書至、田村長子。寄書、田村氏及園家。  
鈴木泰子より、さつま芋二俵。

十一月二十日 金曜 晴。

朝五時起。午下、生徒書画会執行ス。席上、揮毫物、皆々え鬮引す。三時畢。

十一月廿一日 土曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、徳川氏え行、教授して帰。來客、志賀鉄千代。  
志賀氏よりくた物一籠。

\*くた物(果物)

十一月廿二日 日曜 雨。

朝五時起。祭祀ス。午下一時より田村氏田畑別荘え招かれ、余、愛治郎、桃子、園頼子、栄子、鶴子、盛子を同道して行。外ニ桜井家内及娘、九条、中川、其外誰々ニて、この日は園遊会のつもりなから、雨にて庭の遊ひは出来ず。紅葉はよく雨にて殊更色麗しく見栄えあり。御料理も結構。主人、客人とも、謡、つゝみ、其外、講談等にて、いと面白く、夜八時帰。来客、鈴木雪。

斎藤氏、大柿廿四。鈴木雪、鶏卵一箱、生徒一同えすし十五箱。

\*田畑(田端) \*つゝみ(鼓)

十一月廿三日 月曜 晴。

朝五時起。祭祀ス。終日揮毫ス。晡、五軒町を訪テ帰ル。寄書、熊本沢村鶴子、斎藤仁子、中井敬所。加藤玉江、近日嫁入ニ付、松魚二円を祝ふ。

内藤氏、菓子一折。西川氏、くた物一籠。熊本沢村より内紫一籠。

\*くた物(果物)

十一月廿四日 火曜 晴。

朝五時起。課業如例。入塾、田辺朝子。帰塾、小室兩人。

正木浜子より干柿一箱、蜂みつ一瓶。千家国子より菓子一箱。田辺朝子、蒸菓子一箱。

受方摘要 毛利万子、五円。

\*蜂みつ(蜂蜜)

十一月廿五日 水曜 晴。

朝五時起。課業如例。午下、戸田氏ニ教授して、田村氏を訪ひ、夫より五島氏に教授して帰。来客、佐野隠居。

佐野氏より鶏卵一箱。

十一月廿六日 木曜 陰。入夜雨降、夜豪雨甚し。

朝五時起。課業如例。午下、岩倉邸ニ教授して帰。

十一月廿七日 金曜 晴。昨夜の雨にて池の水地上にあふる。

朝五時起。課業如例。退校、清水菊子。来客、重威。

弘方摘要 京都旅行入費、金三十拾円、重威え渡す。

十一月廿八日 土曜 晴。

朝五時起。運動す。課業如例。退校、一柳千賀子。来客、志賀鉄千代。

一柳氏より鶏卵一箱。志賀氏、鐘詰もの二箇。塩原氏より、さつまいも三俵。

十一月廿九日 日曜 陰。

朝六時起。終日揮毫ス。

田中加代子、カル、ス煮餅一鐘。斎藤氏より蒸菓子一箱。

\*カル、ス煮餅(カル、ス煎餅)

十一月三十日 月曜

朝五時起。近方逍遙して帰。午下、岩倉家ニ教授して帰。

弘方摘要 雑費、金拾三円三拾四銭。陽子え二円。

受方摘要 会計より五円。

\*近方(近傍)

(十一月会計、記載ナシ)

(十二月)

十二月一日 火曜 晴。初氷ヲ結ふ。霜はしら二寸。四十六度。

朝五時起。氷川神社ニ参詣して、墓参して帰。千よ子の六周年祭典執行す。午下三時頃より、余、愛治郎、千久、桃子、栄、鶴、晨子と共に、五軒町二行、祭典す。夜八時帰。来客、浦太郎。

浦氏より菓子一箱。

\*霜はしら(霜柱)

十二月二日 水曜 晴。

朝五時起。牛天神え参詣して帰。課業如例。

田村盛子より絹はんかち六枚。

\*絹はんかち(絹ハンカチ)

十二月三日 木曜 晴。

朝五時起。白山神社ニ参詣して帰。課業如例。午下、代々木久米氏を訪ふ。子供等皆々壮健。茶席、大既出来也。帰途、石山家を訪ヒ、閑談して帰。点灯比也。

\*大既(大概)

十二月四日 金曜 晴。朝四十度。霜ふかし。氷結ふ。

朝五時起。丸山わたりに散歩して帰る。課業如例。午下、佐野の隠居を問ふ。この度、佐野延勝氏、勲功により華族に例せられ候に付、その御悦ニ出てたり。不在にて帰る。それより徳川氏ニ御教授まふし上て帰る。

浜谷房子より黄金つけ五樽。斎藤三人より鰻二箱。

弘方摘要 目鏡代一円十銭。海綿代、十銭。

\*霜ふかし(霜深し) \*例せられ(列せられ) \*まふし上て(申し上て) \*黄金つけ

(黄金漬) \*目鏡(眼鏡)

十二月五日 土曜 晴。

朝五時起。伝通院のほとり散歩して帰る。課業如例。来客、佐の隠居。京都木田氏え黄金つけ一樽おくる。

佐の隠居より鴨二羽籠入。小泉姉より菓子一箱。松田すてより菓子一箱。田しま氏より菓子一箱。

\*佐の隠居(佐野隠居) \*黄金つけ(黄金漬) \*佐の隠居(佐野隠居) \*田しま氏(田島氏)

十二月六日 日曜 晴。霜雪の如し。池面氷ヲ結ふ。

朝五時起。氷川神社ニ参詣して帰。終日揮毫ス。来客、浅田幸子、其母、退校願出ル。浅田氏より鶏卵一箱、真綿三束、生徒一同え蒸菓子。

十二月七日 月曜 晴。

朝五時起。白山神社ニ参詣して帰。課業如例。入門、内山千久子。受方摘要 軍事公債利子、七円五十銭。

十二月八日 火曜 晴。

朝五時起。牛天神ニ参詣して帰。生徒ニ試筆の稽古をはしむ。

十二月九日 水曜 晴。

朝五時過起て、氷川神社ニ参詣して帰。午下早々戸田氏及五島氏ニ教授して帰。来客、斎藤善子、良粥。

斎藤善子より松魚一箱、御料理一重。良粥より蒸菓子一箱。森永より蒸菓子。

\*良粥(良粥) \*良粥(良粥)

十二月十日 木曜 晴。

朝五時起。牛天神ニ参詣して帰。課業如例。斎藤善子より鴨二羽籠入。

十二月十一日 金曜 晴、夜雨。

朝五時起。近方運動して帰。課業如例。来客、中井敬所。生徒、試筆書納ル。

弘方摘要 印章代、四円。

中井より蒸菓子一箱。安田千代、蒸菓子一箱。

\*近方(近傍)

十二月十二日 土曜 晴。暖気。

朝六時より白山神社ニ参詣して帰。来客、角田四三子、千枝子。三年生号命之者六人え印章ヲ贈ル。

角田氏より雁二羽。田村氏より白御召一反、白七子一反、糸織一反、繻珍帯一筋、半襟二懸、カステイラ一箱。横浜渡辺より鮭二尾、するめ二連。

十二月十三日 日曜 晴。霜深。

朝六時起。余、泰と同じく、氷川神社ニ参詣して帰。午下早々閑院宮え参り、両殿下ニ拝謁申上、御移転の恐悦申上ル。両殿下御先導にて御新築の御殿不残拝見申上ル。実ニ日本館の結構、宏大なる事いはん方なし。御洋館ハいまた御飾付、御敷物もなきよしにて、拝見いたさす候。御杉戸揮毫仰付られ候。御請申上ル。夜駒込蓬萊町火。

閑院宮様より大檜子。わしたより、みかん一箱。斎藤より、みかん一箱。

受方摘要 樹下定江。三円、平田三枝、三円。生源寺、三円。

\*わした(鷺田)

十二月十四日 月曜 朝雨、已而晴。暖気。六十度。

朝五時起。室中運動一時間。課業如例。此日を以テ画の試筆教授を始め。来客、山泉幸子、渡辺重石丸、延岡の人赤星氏。書画、土居早苗、松田今子。

山かたより蒸菓子一箱。赤星氏より国産椎茸一箱。大塚陽子、海苔十帖、義介煮二罐、わさひ積一罐。

\*山かた(山形) \*義介煮(儀助煮) \*わさひ積(山葵漬)

(十二月十五日〜二十日、記載ナシ)

十二月廿一日 月曜 徳川氏有約。

受方摘要 星野氏、五円。内田氏、一円。片平氏、五円。(氏名欠)、弐円。

十二月廿二日 火曜

受方摘要 (氏名欠)、三円。西村喜三郎、二円。岩倉氏、三円。全、十円。徳川氏、廿円。安田千代、千疋。安田輝子、五円。

十二月廿三日 水曜

受方摘要 佐藤いと、一円。(氏名欠)、一円。(氏名欠)、五百疋。(氏名欠)、三円。三条家、拾円。松平妙、千疋。博文館、二十円。中村敬、二円。

十二月廿四日 木曜

受方摘要 吉田内侍、三円。斎藤佐野、三十円。同、七円五十銭。今城、千疋。(氏名欠)、三円。(氏名欠)、三円。斎藤佐野、三円。

十二月廿五日 金曜

受方摘要 石山晨子、五百疋。(氏名欠)、三円。森千代、二円。戸田氏、十一円。園典侍、三円。藪兼子、三円。

十二月廿六日 土曜

受方摘要 九条恵子、千疋。迹見重威、一円。若松典侍、五百疋。関根照子、一円五十銭。五島善子、七円五十銭。

閑院宮、白縮緬一反。原氏より紋織御召一反。田村氏、白御召一反、白七子一反、糸織一反。戸田氏、一楽織一反。

十二月廿七日 日曜

内藤氏、糸織二反。岩倉氏、縹珍羽織裏地。

受方摘要 松平岳子、三円。石川倉子、三円。茂木栄子、五円。

払方摘要 **かんさし**類、四円四十五銭。全、壹円七拾五銭。**めりんす**帛紗五ツ、壹円七十銭。金時計、貳拾九円。

\*かんさし(簪) \*めりんす(メリンス)

(十二月廿八日〜三十一日、記載ナシ)

(十二月会計、記載ナシ)